

行政評価に関する意見書

平成28年度

平成29年3月

佐倉市行政評価懇話会

目次

I．はじめに.....	2
II．行政評価懇話会 活動状況	3
III．行政評価に関する意見	4
1．施策評価に関する全体的な意見.....	4
2． テーマ1 「健康づくりが進んだまち」に関する意見	6
3． テーマ2 「地域コミュニティが元気なまち」に関する意見 ...	13
資料1 佐倉市行政評価懇話会名簿	18
資料2 市民ワークショップについて	19
資料3 市民ワークショップ全意見	21
資料4 まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価結果	44

I. はじめに

佐倉市行政評価懇話会は、第4次佐倉市総合計画基本計画に位置づけられた基本施策の取組の方向性及び実現のための手段を調査検討し、その実効性を高めるために設置された会議です。平成19年度に佐倉市行政活動成果評価懇話会の名称でスタートした本懇話会では、平成22年度からそれぞれの課題や現状を把握するため、各施策を所管する部署との意見交換を実施して議論を深めてきました。平成24年度からは佐倉市行政評価懇話会と名称を改めましたが、これまでの方針や手法は踏襲し意見を述べてきました。

本年度は、新たな試みとして、第4次佐倉市総合計画後期基本計画策定時に参加された市民の皆様にご協力をいただき、ワークショップ形式で意見交換を行いました。意見交換におけるテーマについては、後期基本計画の重点施策である、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられた施策をもとに、「市民の関心が高いか」、「市民が主体的に関わることができるか」を重視し、選択いたしました。参加者からは、当事者として、また、まちづくりの主演として、これまでにない視点やアイデアをお伺いすることができ、改めて市民との対話の重要性を感じる機会となりました。

この意見書は、市民ワークショップで検討した2つのテーマについて、参加者から提案された事項のほか、他市町村の事例なども参考にしながら、第三者としての視点又は市民としての視点から、佐倉市が行う行政サービスの価値を高めるために役立つと思われる提案をまとめさせていただきました。

また、第5回・第6回の会議では市からの求めに応じ、まち・ひと・しごと創生総合戦略の交付金対象事業8事業と8つの施策について、担当課からの説明に基づき、金融、労働、言論、産業の各分野のオブザーバーのご協力をいただきながら懇話会としての意見をまとめております。

担当部局におかれては、当懇話会の意見を参考に、業務の見直し、並びに施策及び事業の質の向上に努められることを期待いたします。

なお、本意見書の作成にあたり、多くの皆さまのご協力をいただきましたことに厚く感謝を申し上げます。

佐倉市行政評価懇話会

委員長 武藤 博 己

副委員長 目 等 洋 二

委員 宇田川 光三

委員 小 野 房 子

委員 坂 口 嘉 一

委員 林 奈生子

委員 吉村 真理子

Ⅱ．行政評価懇話会 活動状況

回	日時・場所	内容
第1回	8月23日（火） 10時～12時35分 1号館3階会議室	平成27年度行政評価の報告および平成28年度の行政評価懇話会意見交換対象基本施策の選択、市民ワークショップの実施を決定しました。
第2回	10月4日（火） 10時～12時10分 1号館3階会議室	意見交換対象施策評価について事務局（企画政策課）から説明、市民ワークショップの実施方法、まち・ひと・しごと創生総合戦略評価の説明を受け、意見交換を行いました。
第3回	10月30日（日） 9時～12時30分 社会福祉センター3階会議室	市民ワークショップを実施しました。
第4回	11月19日（土） 9時30分～12時15分 社会福祉センター3階会議室	市民ワークショップを実施しました。
第5回	2月2日（木） 10時～12時10分 1号館3階会議室	まち・ひと・しごと創生総合戦略施策について（地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金、地方創生先行型）に係る事業実施結果の評価を行いました。
第6回	2月7日（火） 10時～12時50分 1号館3階会議室	まち・ひと・しごと創生総合戦略（8具体的施策）に係る評価を行いました。
第7回	3月3日（金） 10時～12時5分 1号館3階会議室	これまでの議論の意見整理、意見書作成にあたっての意見交換を行いました。
第8回	3月16日（木） 14時～15時30分 1号館3階会議室	意見書作成にあたっての意見交換を行いました。

Ⅲ. 行政評価に関する意見

1. 施策評価に関する全体的な意見

◆情報発信について

今年度、2つのテーマから選択した5つの施策評価、また「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の事業及び施策評価における共通課題として、情報発信の不足があげられます。各項目でも述べていますが、事業の成果を求めるのであれば、実施して終わる活動指標にとどまらず、それぞれの目的に照らし「誰に、どのようにして伝えるか」を検討する必要があります。

担当所属で努力することはもちろんですが、PRに長けた職員や専門家による見直しなどにより、総合的にプロデュースすることが重要です。重要施策はシティプロモーションなどの視点から、PR方法の総点検を行ってはいかがでしょうか。

市の発行する広報紙は、市民とメッセージを伝えあうための重要な手段です。この観点からみれば、佐倉市の広報紙は大変充実し、内容も素晴らしいものです。今後更に、見逃せないという印象を与えるインパクトのある紙面デザインなどの工夫、以前も提案しましたが、市民との往復書簡の形式（質問を投げ、回答を掲載する）での紙面づくりなど、よりいっそう市民の関心を高める工夫をしてください。

また市は広報掲載情報を全市民に届けるよう努めるべきです。新聞折込による配布方法を取っていますが、新聞購読世帯数が減少し、約二割の市民に届いていない現状を踏まえ、広報紙の配信アプリなどの普及率が向上するまでの間、予算を投じてでも駅や商業施設、民間幼稚園など関連施設等への配架など、手に取ってもらえる工夫が必要と考えます。

◆市民ワークショップについて～市民との対話～

今回、行政評価懇話会における新たな取組として、市民ワークショップを実施しました。これまでは担当課から実情を聞くことで実効性を高めていこうとしてきましたが、市民ワークショップによる市民との直接対話は、施策を見直すにあたり大変貴重なものとなりました。特に、市の取組がいかにより市民に知られていないかを痛感しました。またこのようなワークショップ形式でのやりとりが市への興味関心を高めるよい機会となることもわかりました。個別のテーマにおいても多角的かつ主体的なアイデアが提供され、今後のまちづくりにも成果が期待できます。市職員もより多くの市民と直接ふれあう機会を設けてほしいと考えます。ワークショップなど誰もが話しやすい雰囲気の場の提供の

ほか、できるだけ市役所で待つのではなく、市民がいる場所に自身が出向いていくことを検討してください。

◆各所属の今後の方針について

これまで行政評価懇話会から様々な意見を述べてきましたが、近年、各所属からの回答に積極性が不足していると感じます。対応については難しい側面もありますが、意見の趣旨を汲み、少しでも事業を推進するための工夫を検討ください。代替案も含め、各々真摯に検討いただきたいと思います。

◆市民の主体性

各テーマの推進にあたり、行政側の役割について多くの意見を述べましたが、健康づくりや地域コミュニティ活性化は市民の主体性があってこそ本来の目的が達成されるはずです。

市民が主体的に取り組めるよう行政が脇役に徹して側面支援を行うことや、市民の意識向上に努めることと併せ、市民側も自分たちが主役であることの自覚を持ち、自分たちでできることを常に前向きに考えるよう努めるべきと考えます。

2. テーマ1 「健康づくりが進んだまち」に関する意見

◆対象施策

- 1 章 基本施策 2 「市民の健康づくりを支えるまちにします」
- 1 章 基本施策 10 「地域医療が充実し、市民が安心して暮らせるまちにします」
- 3 章 基本施策 10 「スポーツが日常化したまちにします」

ア. 施策の概要

章	1 章 「思いやりと希望にみちたまちづくり」		3 章 「心豊かな人づくり、まちづくり」
基本 施策	1 章 基本施策 2	1 章 基本施策 10	3 章 基本施策 10
	市民の健康づくりを支えるまちにします (まひし基本目標 4)	地域医療が充実し、市民が安心して暮らせるまちにします (まひし基本目標 3)	スポーツが日常化したまちにします (まひし基本目標 2)
基本 方針	特定健診、各種がん検診、予防接種、保健指導などの保健事業の充実を図るとともに、地域でのリーダーの育成に努めつつ、市民が主体的に行う健康づくりの活動を支援することで、地域での健康づくり活動を推進します。	医師会、医療機関などと連携し、救急医療環境及び体制の維持・充実を図ります。また、医療情報の収集や提供に努めるとともに、感染症に対する健康危機対策を強化し、市民が安心して暮らせるまちを目指します。	『スポーツ振興基本計画』に基づき、日常的に地域の中でスポーツや身近に楽しめる運動などを通して、心と体の健康づくりを一層進めていきます。今後、多様化する市民のスポーツニーズへの対応を充実し、市民体育大会や佐倉朝日健康マラソン大会などのイベントや、各種スポーツ教室を実施します。また、スポーツ施設・設備の修繕・改修を行い、適切に管理・運営することで、利便性を促進します。
施策	1 市民とともに地域の健康づくりを推進します 2 生活習慣病の予防を推進します 3 がん・感染症などの早期発見・重症化防止に努めます	1 医療に関する情報の提供に努めます 2 救急医療体制を維持・充実します 3 特定疾患の患者の支援に努めます 4 健康危機対策を充実します	1 生涯スポーツのサポート環境を充実させます 2 スポーツに親しむ機会を提供します 3 安全で快適なスポーツ施設を提供します
担当 課 ★主管 課	健康こども部 健康増進課(★)、市民部 健康保険課、福祉部 障害福祉課	健康こども部 健康増進課(★)	健康こども部 生涯スポーツ課(★)、教育委員会 社会教育課

イ. 今後の方向性・期待すること

【情報発信の徹底～周知方法の工夫～】

市は、スポーツ大会の実施や健康教室の開催など、数多くの事業を行っており、健康づくりの推進やスポーツ振興に熱心に取り組んでいると評価できます。しかし一方で、市民ワークショップの参加者のほとんどがその取組を知らない状況でした。これを受け止め、課題とすべきです。

広報紙への掲載、公共施設への掲出といった既存の方法だけに頼らずに、駅や商業施設での周知、自治会単位の取組やロコミ、ポスティングなど様々な伝え方を工夫すべきです。また対象者を絞り込み、伝わる方法を検討すべきです。例えば若者なら SNS、高齢者なら自治会経由や知り合いからの紹介、ミニコミ誌への掲載など、対象によって効果が上がるツールは異なります。また各事業担当者も PR について必要な知識・技術を習得すべきではないでしょうか。

情報の出し方も重要です。運動サークル団体の一覧表を配布する場合、情報として構成員の年代や連絡先、団体からの一言など、一歩が踏み出せるような情報を掲出してはいかがでしょうか。

行政側は市民との相互交流の場、双方向のやりとりの機会を増やすべきです。行政側は情報が伝わっていないという現状を、市民側はどうしたら情報を受け取りやすいかを、それぞれ考えることが必要です。まずはイベントでの聞き取りアンケートやワークショップの取組を増やすなど、直接市民と対話する機会を増やしてほしいと考えます。

【自治会や学校などを単位とした事業展開】

「健康づくり」に焦点を当てるのならば、毎日の積み重ねを重視すべきです。そのためには身近な地域で運動を推進する取組が重要です。現在行われているスポーツ大会も、競技者のやる気を保つのに有効であろうと考えますが、日常的に「身体を動かすこと」を、より推進するべきではないでしょうか。

そのような取組を生涯スポーツ課と健康増進課で協力し、新たな事業を検討してはいかがでしょうか。

運動教室や健康啓発などの事業は、自治会や学校などを単位として実施することで、地域コミュニティの結びつきを生むきっかけにもなりえます。

ただし事業場所の分散化は、人手などの問題があります。地域の人材を育成するコミュニティカレッジとの連携のほか、各地区で活動するリーダーの育成事業や地域での運動サークルの育成を行うことや、事業を実施してみたい地域まちづくり協議会などと協働し、モデル地区で重点的に実施し、その効果の検証を行うといった試験的な取組から始めてはいかがでしょうか。

【より身近な場所で出来ることー公園や自治会館、小学校の活用ー】

市民ワークショップで多く聞かれた声が、「良い事業をやってくれていても移動手段がなくて行けない人がある」ということでした。

佐倉市は身近な場所に公園があり、自治会ごとに概ね会館を持っています。この充実した環境を生かし、公園や自治会館、出張所や公民館など、身近で親しみのある場所での健康づくりの“きっかけ”を提供すべきではないでしょうか。公園管理の部署と健康やスポーツの部署が連携し、市民の財産を市民のために活用することを検討してください。

高齢者が集まるのは病院の待合室といった話もあります。病院以外に集える場所をつくることは健康促進と医療費削減につながると考えます。

市内では自主的にラジオ体操をしている人が多いとのこと。市は自主的な取組に張り合いが出るような仕組みをつくり、地域ごとの活動の促進や、自宅での自主的習慣づくりを促してはどうでしょうか。

〔市民ワークショップより〕

○自治会と連携した取組

→まずは参加しやすい見学や体験会の開催を

- ・小学校等施設を利用しやすくする取組を。
- ・自治会と連携してのスポーツ振興。
- ・防犯パトロールの際にラジオ体操などを行う。
- ・身近な公園などでのラジオ体操の実施
- ・公園に、誰もが使える健康用具の設置など

【市の様々な取組に参加するための交通手段と歩けるまち】

前述しましたが、高齢化が進む佐倉市では、身近な場所での事業実施といった工夫とは別に、交通手段の確保が求められています。

市内は車がないと赴くのが難しい場所も多く、買い物、病院、公共施設など、生活する上で必要な場所への移動に悩む市民が増加する恐れがあります。交通手段の確保は、定住人口の維持向上、元気な地域コミュニティのためにも有効といえます。

コミュニティバスなどの検討も必要ですが、現在あるバス路線の維持も重要です。市民も意識して活用するなど地域の足を皆で守る機運が必要です。

また歩きやすいまちであれば、高齢者でも外出の機会は増えるのではないのでしょうか。佐倉市は市域が広く、人口減少傾向であるため、歩道整備に多額の費用を掛けることは難しいと考えますが、道路整備・改修の機会にあたっては健康のまちづくりにおいて重要と考えられる歩道の確保を計画的に行ってください。

【その人にあった運動アドバイスが出来る相談体制づくり】

市民ワークショップでは「果たして、スポーツは健康によいのか」という疑問が提示されました。議論ではスポーツをすることで怪我や病気になる人もいるので、まずは個人にあったスポーツ・運動を選ぶことが重要という意見が出されていました。また、人は個々で体調や体力も異なるため、見合うスポーツを選べるような相談窓口があっても良いのではとの意見がありました。

現時点で持病を持っている人も多くいる中で、例えば膝や心臓に負担を掛けない運動のアドバイス、ストレッチや呼吸法など、その人にあった適正な動作や運動量を相談できる窓口や、パーソナルトレーナーのような相談員がいれば市民の運動機会が増えるのではないのでしょうか。例えば、検診など事業実施時に、相談やトレーニングを教わるサービスを提供することで、検診率の向上と健康意識の向上をあわせて目指してはいかがでしょうか。

現在、佐倉市では健康管理センターなどの保健師や栄養士が健康アドバイザーとして相談対応を行っているとのこと。この健康アドバイザーの認知度を高め、更に、運動療法や団体の活動情報など、スポーツに関する情報を含めたアドバイスが受けられるようになることを期待したいと考えます。

病状によっては運動を医師に推奨されていながら、なかなか取組めない人も多くいるはずです。佐倉市は市内病院と様々な連携体制が図られており、市民の安心につながっています。この体制を生かして、運動が必要な患者さんに気軽に参加できる教室や市民団体の紹介が出来るようにしてはいかがでしょうか。

なお、施策の成果指標となっているがん検診受診率については、人間ドックなど市検診以外の受診率が反映されないなど、目標値の設定や実績値の取り方にも精査が必要ではないのでしょうか。また受診率向上について、受診のメリットや必要性について、身近に感じる体験談の紹介や、早期発見による優位性や財政への影響を数値で表現するなど、工夫してPRすべきです。

〔市民ワークショップより〕

○運動の進め方

- ・体を動かすことを目的とする（基礎的運動）
- ・スポーツに入る前の身体づくり（応用的運動）
- ・スポーツに応じた筋力を伸ばす（発展的運動1）
- ・ケガに対する身体づくり（発展的運動2）

【健康であることの定義】

「健康である」とは何か、定義を明確にしていかがでしょうか。少なくとも事業ごとには、目指すべき姿を明確にすることで、市民と一緒に取り組むことが出来るのではないのでしょうか。「持病があっても前向きに明るい気持ちで生活が出来ること」を健康と定義すれば、投薬治療を受けている人でも、健康であることを目指すことができます。そのための手段として、例えば「外に出て人と話すこと」を目指し、次にそのためには何が不足しているかを考える、という手順で検討・実施していかがでしょうか。

【心と頭の「健康」～人とふれあうまち～】

市民ワークショップの議論では、健康とは体力の問題だけではなく、心も含めた様々な要素があり、個人にあったバランスをとることが健康につながるのではないかという視点があげられました。

心の健康では、まず家に閉じこもらずに人と話す機会を増やすことが対策としてあげられ、そのためにも交通手段の確保や歩いていける身近な場所での事業が必要との議論もありました。

頭の健康については、例えば囲碁や将棋などが有効ではないかという提案もありました。年齢の垣根なく楽しむことができ、年代間のコミュニケーション促進にもつながるものです。例えば希望する自治会が主体的に継続することを条件に、会館備品として用具を提供し、併せてボランティアコーチを派遣する出前講座を期間限定で行ってはどうでしょうか。

〔市民ワークショップより〕

・高齢者がパソコンやスマートフォンを使えると、世界が広がる。何でも聞ける講習会などを企画してもらえないか。

【健康と食生活】

健康でいるためには嗜好や塩分など食習慣が重要です。そのためには大人も子どもも食育が大切であると考えます。薄味に慣れる、和食や和菓子に親しむ、自炊方法を学ぶなど、自然と身につく習慣づくりが大切と考えます。

特に子ども達に対しては、保育園給食、学校給食が全て自校式で実施されている佐倉市の特色をより活用し、栄養士の個々の努力だけでなく全市的に給食を食育機会として充実させることをのぞみます。

【健康な人に必要性を訴えるには】

病気になるまで、人は健康に対して無頓着になりがちです。市民全体の健康意識を高めるためには、健康な人への意識啓発として、メリットをわかりやすく伝えていくことが必要です。健康でいた場合と生活習慣病に罹った場合との経費の比較や、多くの市民が身体を動かす習慣を進めた場合の市財政上の効果を金額などで紹介すると、わかりやすいと考えます。成果をあげている先進自治体の事例を宣伝するのも効果的ではないでしょうか。

【やる気を高めるポイント制】

佐倉市でも歩くとポイントがもらえる制度を実施してはどうでしょうか。他自治体でも複数の事例があります。

健康ポイント制度は国が取り組んでいる「スマートウェルネスシティ」プロジェクトの一環として全国の自治体で取り組まれています。これは健康で生きがいのある状態を「健幸」として、歩くことを基本とした健康づくりを行うまちのことで、千葉県浦安市、栃木県大田原市など複数市が実施しており、歩くことでポイントがたまりコンビニなどで使える制度です。また国の制度によらず単独で実施しているところもあり、木更津市の「きさらづ健康マイレージ」や横浜市の「よこはまウォーキングポイント」などがあります。

〔市民ワークショップより〕

○ポイント制度

- ・万歩計などを活用して、ポイント制を導入したらどうか
- ・商工会等と連携してポイントで商品交換してはどうか
- ・個人の自覚を待ってでは進まないの、佐倉市も一緒に
- ・健康づくりが医療費の削減になるためポイント制の導入
- ・温泉施設や映画の割引などでより元気で脳の活性化へ
- ・健康でつくったポイントを地域通貨として地域活性化にも活用

【高齢であっても地域で健康に暮らすために】

市民ワークショップでは、地域で健康に暮らし続けるための対策として様々な提案がありました。市は、これらの声を受け止め、取組について研究してください。

〔市民ワークショップより〕

○地域で健康に暮らし続けるために

- ・訪問診療体制の充実や移動販売、宅配弁当事業など地域で暮らし続けることを推進する部署の設置
- ・認知症家族を抱える人はなかなか運動できない。託児サービスのように預かってくれるデイサービスがあったらと思う。富山県にあるデイサービス「このゆびと一まれ」が素晴らしい。(高齢者、障害者、子どもをひとつの場所に対応する事例)
- ・健康事業に参加するために、家族の理解と協力が必要

3. **テーマ2**「地域コミュニティが元気なまち」に関する意見

◆対象施策

6 章 基本施策 1 「地域のまちづくり活動が盛んなまちにします」

6 章 基本施策 2 「ボランティアやNPOなどの活動が盛んなまちにします」

ア. 施策の概要

章	「ともに生き、支え合うまちづくり」～市民とともに地域の絆をそだてる行政運営～	
基本 施策	6 章基本施策 1	6 章基本施策 2
	地域のまちづくり活動が盛んなまちにします（まひし基本目標 4）	ボランティアやNPOなどの活動が盛んなまちにします（まひし基本目標 4）
基本 方針	市民、企業、ボランティア、NPO、そして行政など様々な活動主体が、お互いの立場と役割を理解した上で、連携・協働ができる環境を整備します。 また、地域社会における町内会・自治会をはじめとした各種団体の活動や各種団体が協働して行う活動に対し、自主活動の妨げにならない範囲で可能な支援を行います。	福祉、まちづくり、国際交流、環境、教育、文化、芸術、スポーツ、防犯、防災など多様な分野での市民公益活動の需要の高まりが予想されることから、ボランティア精神の高揚を図り、幅広い分野への市民公益活動を促進します。 また、市民公益活動団体は、設立から日の浅い団体や小規模な団体が多く、活動を展開する上で、活動場所の確保、他団体との交流、情報の受発信など様々な課題を抱えていることから、団体の自主的な活動を尊重しつつ、これらに対応する環境整備に努めます。
施策	1 まちづくりに対する市民の関心を高めます 2 地域のまちづくり活動の環境を整備します 3 市民活動の情報交流を推進する環境整備を行います 4 地域コミュニティ活動への支援を行います 5 コミュニティの活動拠点を確保します	1 市民公益活動に対する市民の関心を高めます 2 市民公益活動を促進する環境を整えます
担当 課 ★主管 課	市民部 自治人権推進課（★）、 産業振興部 産業振興課	市民部 自治人権推進課

イ. 今後の方向性・期待すること

【なお一層市民サイドのまちづくりを促進するために】

市民ワークショップでは、自治会活動意識の高さや住民が協力的であるという声が聞かれました。市民もこれらを実感していることは素晴らしいと思います。

一方、「サポートセンターも地域まちづくり協議会もよい活動をしているものの、活動が伝わってこない。」との意見もあり、健康・スポーツ振興と同様に、活動の周知やインパクトのある取組にまで至っていない面が見受けられます。地域との双方向型のやり取りが不足していること、様々に活動する団体間の連携が不足していることなどが要因のひとつとしてあげられます。健康づくりで前述した「情報発信の徹底」や「市民と行政の双方向性の情報共有」が地域コミュニティの施策推進にあたっても必要となります。

【関係機関の活躍と連携協力】

地域まちづくり協議会は現在設立数が増加しており、今後の活躍が期待されています。将来的な発展にあたり、地域リーダーの育成が必要と考えます。市職員と異なり、地域の人が他市事例を知る機会などはほとんどありません。市は積極的に視察や研修などを地域の人材に紹介し、育成をしていくべきです。

またワークショップでは縦割りではなく連携を求める声が聞かれました。地域まちづくり協議会と市民公益活動サポートセンターの両者が連携を図ることで、NPO など活動団体とまちづくり協議会のつながりができるなどの効果を期待します。また地域に必要とされる事業の実施により両者の認知度が高まるのではないのでしょうか。そこに市の関係課も加わることで、地域の課題解決に横断的に取り組むことができると考えます。

高齢化、少子化は佐倉市でも大きな課題です。地域の公園を活用したイベント（ラジオ体操、防災訓練、ミニミニ運動会）を自治会と地域の関係機関が協力して実施することで、顔の見える関係が生まれ、地域の絆づくりにつながります。子どもから大人まで参加できる事業内容とすることで、異世代交流の機会とすることもできます。実現にあたり、地域まちづくり協議会や市民団体などが協力しあうきっかけづくりを市に担って欲しいと考えます。

〔市民ワークショップより〕

○交流の場づくり

- ・地域まちづくり協議会で、小学校の校庭を借りて地域の運動会を実施してはどうか。
- ・地域毎に行うスポーツ大会や日々の暮らしの中で健康づくりを自治会で。

【コミュニティカレッジ人材の地域での活躍】

高齢化が進む中、自治会は役員のなり手や防犯パトロール活動者など、担い手を必要としています。

一方、市では地域活動の担い手育成を主眼に、コミュニティカレッジを開校しており、両者間のマッチングが望まれます。

また担い手を求めている行政部局が積極的にコミュニティカレッジの事務局と関わり、講座内容に参加したり、具体的な求人を行うといったつながりを持つて欲しいと考えます。

自治会活動のほか、前述のスポーツ活動のリーダーや囲碁将棋などのリーダー、地域まちづくり協議会のメンバー、子育て支援のボランティアなど、卒業後の活躍の場を明示することで、参加者が身に付けたいことも具体的になり、コミュニティカレッジ生のモチベーションの持続につながるのではと考えます。

【職員と地域とのつながりづくり】

市民との双方向性を高めるため、日頃から地域と職員とのつながりを深めておくべきではないでしょうか。例えば避難所運営職員と地域との交流や、啓発事業に取り組む職員などが地域の会合に参加することで、課題意識の共有や、認知度の状況、事業に対する率直な感想などを直接伺うことが可能です。

行政と市の双方向の情報交流を図るため、地域まちづくり協議会の集まりなどへの職員参加を促進してはいかがでしょうか。

これらの取組により行政組織内に横串を通すことが期待されます。

【自治会未加入者への対応と横の連携】

以前、自治会未加入者に改めて入会を促したところ、理由を「案内がなかっただけ」と答えた人がいたとのこと。住民自治の重要性や助け合いの組織であることを丁寧に説明するなど入会を促すための地道な取組が必要ではないでしょうか。ただし代表者が1年で交代する自治会においては、継続した取組が難しい点もあります。地区代表者会議や地区代表者連絡協議会などの機会に、加入促進のために取組んでいる事例発表など、情報交換や他団体の取組を知る場を増やしてはいかがでしょうか。

〔市民ワークショップより〕

○自治会活動について

- ・自治会が実施するイベントも会員への周知不足でないか。もっとPRすべき。
- ・他の自治会との交流が必要と思われる。

【高齢者の活躍促進】

地域コミュニティの活性化にあたっては、元気な高齢者をもっと活用すべきです。特に 60 歳から 75 歳までの年代を積極的に引き込む活動をしてほしいと考えます。佐倉市には市民カレッジやコミュニティカレッジなどがあり、卒業生のより一層の活躍が期待されます。また社会活動の場に男性の参加が少ない傾向があるようです。健康づくりの一環として、人とのふれあいが増えるように退職後の地域デビューのきっかけづくりを市の施策として取り組んではいかがでしょうか。

〔市民ワークショップより〕

○男性の参加促進

・映画館やスパ施設の割引券などで男性の参加促進。

【地域コミュニティへの子育て世代の参加促進】

地域活動に、子育て世代など若い世代に参加してほしいところですが、日常生活が忙しく、実際には困難な状況です。むしろ高齢者ボランティアで子ども達を支えたり、子どものための活動内容を積極的に増やしたり、子どもたちが活動の主体となる事業を地域住民がサポートすることで、地域コミュニティと子育て世代の関わりを増やしてはどうでしょうか。自治会や小学校単位など顔が見える地域での子育て意識が高まれば、地域で育まれた子どもや親は時間的に余裕が出来たときに地域で活動してくれるかもしれません。

また消防団や防犯パトロールなどの地域活動は、「かっこいい」と子どもに思ってもらえることも大切です。子ども達に、夏休みに参加してもらったり、消防団の練習風景を見学してもらったり、「こども消防団」「こどもパトロール隊」として体験してもらったりと、見せ方の工夫もしながら取り組むことを提案します。

【コミュニティバスなど交通手段の確保】

健康づくりの項目でも述べましたが、地域で暮らしつづけるために必要なものとして、交通手段の確保があげられます。市民ワークショップでは、病院や買い物、公共施設をめぐる巡回バスや巡回タクシー、移動販売などの環境整備は、コミュニティを維持するためにも今後必要となるとの意見がありました。また、より高齢化が進み、運転免許証の返納が増加すれば、広い地域でコミュニティバス等の必要性が高まってきます。

コミュニティバス等の運行を維持するためには財源も必要ですが、ある程度の運賃を支払っても、市民が納得できる利便性の向上があれば、相応負担も了解を得られることもあります。

市には財源と効果のバランス、市民が納得できるラインを見極め、継続性の

ある公共交通のあり方を検討してください。

〔市民ワークショップより〕

○運転免許の返納特典

・運転免許の返納に対しての特典として、コミュニティバスの割引利用など。

【地域コミュニティがより元気になるために】

市民ワークショップでは、地域コミュニティを元気にするための対策として様々な提案がありました。市は、これらの声を受け止め、取組について研究してください。

〔市民ワークショップより〕

・集会所の建替え時に、町の将来像や住み良いコミュニティの場のあり方を地域住民が考えるきっかけを市が作ってはどうか。

・「道の駅」を、皆が集う場、新たな交流の拠点、買い物・食事・健康づくりの拠点としてつくってほしい。財源がいるが、健康な市民を増やして介護保険や健康保険の支出を抑制し、それを必要な政策に当てるなど。

・地域内の空き家を市民公益活動や地域活動へ利用する工夫。

・公共施設のトイレを洋式化し、高齢者が地域参加しやすいまちづくりを。

資料

資料 1 佐倉市行政評価懇話会名簿

(五十音順、敬称略)

氏名	経歴等	備考
宇田川 光三	自治会役員、佐倉市市民協働推進委員 元民生委員・児童委員	
小野 房子	明るい選挙推進委員、元スポーツ推進委員 元民生委員・児童委員	公募委員
坂口 嘉一	元産業振興推進会議委員、元地方創生総合戦略策定懇話会委員、地域公共交通会議委員	公募委員
林 奈生子	法政大学公共政策研究科、デザイン工学部 兼任講師	
武藤 博己	法政大学大学院 公共政策研究科教授 日本協働政策学会理事	委員長
目等 洋二	自治会役員、元市川市代表監査委員 元財団法人市川市文化振興財団評議員	副委員長
吉村 真理子	千葉敬愛短期大学 現代子ども学科教授	

任期：平成28年7月1日～平成30年6月30日

○オブザーバー（第5回、第6回）

(五十音順、敬称略)

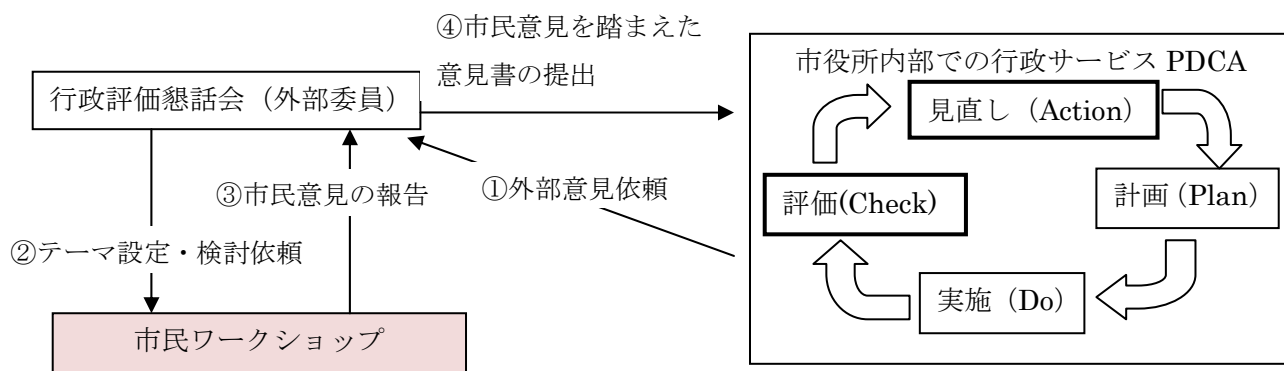
氏名	分野	経歴等
小川 光浩	金融	株式会社 千葉銀行佐倉支店 支店長
菅 博一	労働	連合千葉 成田・佐倉地域協議会 JP 労組
高橋 義和	産業	佐倉商工会議所 事務局長
藤本 健太郎	言論	株式会社 広域高速ネット二九六 通信技術センター 放送制作部長

資料2 市民ワークショップについて

1 ワークショップの趣旨

現在市が取組を行っている施策について、市民の視点や感覚を生かしたご意見をお伺いし、佐倉市行政評価懇話会において、市への意見書をまとめる際に生かしていくことを目的として実施しました。

○佐倉市行政評価懇話会と市民ワークショップの役割と位置づけ



2 ワークショップ参加者

第4次佐倉市総合計画後期基本計画策定時のワークショップでは無作為抽出の市民意識調査対象者4,000人に呼びかけ、結果40名の方にご参加いただきました。今回はその皆様に再度お声掛けし、結果、実数で19名の方にご参加をいただきました。

3 開催概要

回	日時	参加市民	内容
1	10月30日(日) 9:00～12:30	18名 4班	*行政評価と進め方の説明 *課題や地域資源の抽出、取組の方向性の点検
2	11月19日(土) 9:30～12:15	18名 4班	*第1回目を踏まえて、課題解決にむけた手段の見直し、アイデア抽出

4つの班（A、B、C、D）に分かれ、付箋を使った意見抽出やアイデア出し、グループ分け、発表を行いました。なお各グループには行政評価懇話会委員と事務局職員が立会いましたが市民中心の議論となるよう進行役など役割分担は市民とし、委員と職員は主に議論を見守る役割としました。

4 テーマについて

第4次佐倉市総合計画後期基本計画の重点施策（まち・ひと・しごと創生総合戦略）をもとに、参加者の関心が高く、市民の皆さんが身近に捉えられるもの、市民の方自らが中心となることが議論しうるテーマを2本設定し、2班ずつ2回にわたり継続して議論していただきました。

テーマ1	「健康づくりが進んだまち」	A班、B班
テーマ2	「地域コミュニティが元気なまち」	C班、D班

資料 3 市民ワークショップ全意見

◆第 1 回市民ワークショップ全意見（P22～31）

平成 28 年 10 月 30 日（日）実施

◆第 2 回市民ワークショップ全意見（P32～43）

平成 28 年 11 月 19 日（土）実施

第1回市民ワークショップ

全意見

平成28年10月30日（日）開催
（第3回佐倉市行政評価懇話会）



A 班 「健康づくり広め隊」

課題

- ✧ 諸施設への交通ガイダンスがない。
基本的に車利用のシステムになっている。
- ✧ 運動団体に参加する一覧表を作る
- ✧ 訪問往診してくれる一覧表を作る
(歯科のみでなく全ての分野)
- ✧ イベントや啓発は年代別でなく、地域区ごとに開催してほしい。
→地域でのつながりに結びつく。

重要ポイント

- ◇情報発信の徹底
- ◇開催場所の分散化
(小規模でもいい!)

他にも・・・

★マークは
注目ポイント！

- ✧ 宣伝が下手★★
→せっかく良い取組があっても、伝わってこない。
- ✧ 予防的観点の情報提供がほしい★
- ✧ 健康なうちに健康習慣を身につける機会を設けてほしい★
- ✧ 入院できる病院が少ない → 紹介がなくても利用できる小規模な施設がほしい。
- ✧ スポーツ教室の年間実施数を増やす
→現行の年2回程度では、参加がむずかしい。せめて月1くらいで実施してほしい。
- ✧ 安くて気軽に行けるリハビリセンター★
- ✧ 安く利用できる運動施設が地域毎にほしい
- ✧ 市へ診断書の結果をデータ提出しない人が多いのではないかと
→扶養家族など市以外で健診を受けている人が受診率に反映されれば、
受診率があがるのではないかと。
- ✧ 健康診断の期限を設けない
→期限中にいけないときがあるので、有効期限をなくしてほしい。
- ✧ GW 期間等混雑が予想される期間中、休日担当医を1箇所ではなく2箇所おいてほしい
- ✧ がんセンターがほしい →今後、高齢化社会が進むと重要なポイントとなる。
- ✧ 男性の参加を促す良い方法はないか

車がなくても利用できる距離にほしい。

良いところ

- ✧ 行政としての取り組みの姿勢は良いと思う
- ✧ 運動の大会が多くある
- ✧ 医療機関との連携があるため、先生方が必ず運動をしているか聞いてくれる
→医療機関でスポーツやジェネリックの利用を進めてもらえるのは連携を感じる

その他

(付箋)

- ◇ スポーツ競技に対しての競争という意識をどのように考えるか
→順位をつけることを好しとしない風潮があったこともある
- ◇ 都市構造が基本的に車移動になっている
- ◇ 生活に即したコミュニティバス運行の必要性
→人の動線とバス等路線が一致していない。
- ◇ 健康というテーマは市民によりニーズの違いがあり難しい
- ◇ テーマを絞り、年齢別とする
- ◇ 高齢者は人と会うことが良い刺激となる。
→年齢ごとに価値観が異なることの例としての意見
- ◇ カムロ人形のスポーツイベントを作る。
→カムロ杯と冠すなど、市民に親しみを持てる形で。

検討テーマの範囲が広い
と議論しにくい。効果的
に、年齢別などターゲッ
トを絞ったほうがいい

(雑談などから)

- ◇ 大和芋、落花生など特産品が知られていないので、町中で作って販売するといいい。
- ◇ 民間からすると、行政はスピードが遅い →鋭い視点がほしい
- ◇ 福祉分野への税金投入率が高い。ばら撒きとを感じる点もあるので見直してほしい。
- ◇ 福祉分野に力が入りすぎているので、道路の狭いところ、暗いところに充てるよう見直しをしてほしい。
- ◇ 行政と警察はもっと密に連携すべき
- ◇ 佐倉市には免許のない女性も多いと感じる。女性はとくに高齢化で足が弱くなりやすいので小回りが利くコミュニティバスの運行があると買い物難民防止にも効果的でいい。
- ◇ 今回参加者から出てきた意見が今後どのように反映されるかが大切

発表内容

施策の実現のために取り組んでいる事業はすばらしいが、それがうまく伝わってきておらず、活用しきれていない印象なので、情報発信の徹底をしてほしい。

その他の意見ででた生活に即したコミュニティバスの運行の必要性について補足する。せっかくスポーツ大会などを開催していても、高齢者の方は免許返上をしていたり、そもそも免許をもっていない方がいたり、佐倉でのイベントに志津の人が行けない実情からこの発言があった。こういった課題点に着眼し、小規模でもいいから開催場所の分散化を提案した。

B班「健康づくりが 進んだまち 佐倉」

課題

- ◇ 健康づくりと称しての犬の散歩
- ◇ ガンがわかる血液検査について、知識不足だった
- ◇ ガン検診の受診率が低く、目標値の設定方法が疑問
- ◇ 佐倉市の健康テーマを知らなかった
- ◇ 人の交流が多い時代なので、個人だけで健康が維持できるか
- ◇ 健康を推進する理由・根拠について伝わってこない
- ◇ スポーツと交通事故の関係
- ◇ スポーツで本当に健康になるのか
- ◇ 収入が少ない中、スポーツは費用がかかるのでは
- ◇ 生活時間の中からスポーツする時間を作り出せるか

元気のために

スポーツと健康

良いところ

- ◇ 行政は健康面について良く進めている
- ◇ 健康教育・健康相談等の実施、充実、広報
- ◇ 地域コミュニティは進んでいるようだ
- ◇ 週に1程度の運動なら結構やっている
- ◇ 市主催スポーツ大会は数多く実施されている
- ◇ 自主的にラジオ体操をしている人達が多いので
張り合いが出るような良いことができないか
- ◇ ウォーキングをしている人は割合多い
- ◇ 病院の数が多い

いつも元気で

スポーツへの参加

医療機関の充実

その他

(付箋)

- ◇ 増加する医療費と税金への影響
- ◇ 医療費を抑制すると佐倉にどのように良い点があるか
- ◇ 担当医師によって、悪玉コレステロールの評価が違う
- ◇ 公園に高齢者向けの健康促進器具を設置してほしい
- ◇ 気軽に健康アドバイスが受けられると良い
- ◇ 運動が苦手な人手も運動ができる環境作り
- ◇ 「健康である」の定義を明確に

健康の改善

- ✧ スポーツへ参加しない方にはどうするか
- ✧ 犬のフンの始末が出来ない人が多い
- ✧ 車道と交わらない、遊歩道、自転車道の設置を
- ✧ 食の関心が高いため、健康と結び付けられると良い
- ✧ 町内会の役員は毎年変更して経験することで、理解できることもある。
- ✧ 地域をまとめる協議会の力が若干弱い

地域の役割改善

（雑談などから）

- ✧ 病院や歯医者数は多いが、どこも待ち時間が多い
- ✧ 施策評価について、未達成の原因と分析が必要
- ✧ 説明資料をもう少し図形化してほしい
- ✧ 57の施策体系は優先順位が分からず多すぎである
- ✧ 「まひし」の説明が少なく理解が難しかった
- ✧ ワークショップの成果報告書を情報提供して欲しい

発表内容

まず、テーマについて良く出来ている部分として、健康教育等やスポーツ大会の実施等、行政の取り組みについては良くやれているとの意見があった。

また、地域コミュニティでの取り組みも良くできているという意見があった。

一方、課題や改善が必要な点もあり、がん検診の受診率の低さについては、行政の頑張りや伝わるものの、もっと広報の工夫や充実が必要ではないかとの意見となった。

スポーツと健康については、スポーツを行うと本当に健康になれるのかが、伝わってこないとの意見もあった。健康になれるのであれば、メリットやデメリットを含めもっとはつきり周知していくようなアナウンスが必要ではないかとの意見があった。

スポーツへの参加については、既にスポーツをできている人は元気な人が多いのではないかと考え、一方で、健康でもスポーツをできていない人、足腰が弱いため参加できない人も多いのではないかと考えた。

課題として、このような人達をどのようにスポーツにつなげていくかを考えることも重要と捉えた。また、食の関心が高いため、健康と結びつけられると良いのではとの意見もあった。全ての人を健康にするのは、非常に難しいと思われるが、個人単位での自覚が何より重要になってくると考えている。

（感想）

スポーツに参加できていない層をどう取り込んでいくのかという着眼点は重要だと感じた。この課題に対しての取組をどう解決すればよいか次回の発表を楽しみにしている。

C班「元気な地域コミュニティ のために！！」

良いところ

- ✧ ゴミ収集がしっかりしている。小型家電等の収集がよい。
- ✧ 公民館祭等の事業に多くの人に参加している
- ✧ 防災さくらの放送はよい
- ✧ 町内会館が多い（各町会に一つはある）
- ✧ ボランティアが多い町
- ✧ 防犯パトロールが盛んである

自治会

- ✧ 年2回の側溝掃除と懇親会。
→ご近所づきあいのよいきっかけになっている。
- ✧ 自治会が面倒な時がある
- ✧ 役員をやりたい人とやりたくない人がいる
- ✧ 自治会活動での事故と責任
- ✧ 自治会役員のなり手
- ✧ 朝の子どもの見守りは続けて欲しい
- ✧ 集会所の建替えの際、資金面と共に、その街の将来像や住みよいコミュニティの場のあり方を提案して欲しい

市への要望

- ✧ 安心して暮らせる町として感染症予防をしっかりとって欲しい。
成田に近く京成電車を介して最近の病気の感染が広がりやすい。不安もある。
- ✧ 買い物するのに交通手段がない
- ✧ 高齢者になっているので買物難民。毎日を健康的にすごすのはむずかしい。
- ✧ 市が中心となって移動販売をして欲しい
- ✧ 民間業者を参入させて宅配弁当を手配する課を設置して欲しい
- ✧ 市がいろいろと企画してくれていますが、それに参加する交通手段がない。
高齢になっているので、通える環境づくりを検討して下さい。
- ✧ 巡回バス
- ✧ 道の駅

- ✧ 公園の有効活用
- ✧ NPO、ボランティア活動への参加の仕方がわからない。
- ✧ 難病者、ハンディのある人のスポーツも検討して欲しい。
- ✧ 運動教室や健康、栄養などの啓発事業をするとき、自治会や学校を単位でやって欲しい。その後の地域の結びつきにつながる。
- ✧ 地域まちづくり協議会の活動がわかりづらい。
- ✧ 高齢者の活用
- ✧ 後期高齢者を光輝高齢者に
- ✧ 坂の上なので、駅までの往復が大変である。バスの数を増やして欲しい。

健康

- ✧ ふまねっと運動（※）を地域で
- ✧ 自分の体と地域は自分達で守る
- ✧ 育自（育児が終わったら、自分自身を育てる）
- ✧ 幼児からの食育

※ ふまねっと運動とは・・・

50センチ四方のマス目でできた大きな網を床に敷き、この網を踏まないようにゆっくり慎重に歩く運動です。

マス目を利用したステップがたくさん用意されており、このステップを間違えないように「学習」しながら歩行のバランスを改善する「運動学習プログラム」です。集団で交差して歩くこともできるので、レクリエーションとしても楽しむことができます。

その他

（付箋）

- ✧ 消防団への関心が低い
- ✧ ボランティアに参加する時間がない
- ✧ 子ども中心のボランティアがあれば子育て世代も参加しやすい
- ✧ 空き家の増加

（雑談などから）

- ✧ 古い地域なので、地域に入っていくづらい
- ✧ 自治会が揉め事の原因になったことがある
- ✧ 消防団の団員が固定化してしまっており、若い世代が入ってこない。
「こども消防団」があれば、若い子育て世代に関心を持ってもらえるかも
- ✧ 高血圧等の子どもがいる。数十年後を見据えた健康づくりを行っていかなければならない。

- ☆ いま野菜が高い。メインどおりに「道の駅」があり、安く野菜を売ってもらえればコミュニケーションの場にもなる。
- ☆ 75歳までは高齢者とはいえない。それまで活躍できる場が欲しい。そして後期高齢者は、光り、輝く高齢者、光輝高齢者になってほしい。
→ ご自身の寝たきりとなった父親を、介護保険制度のない時代に10年看護した経験から。自分自身は、寝たきりにはならないよう、アクティブシニア！

発表内容

良いところは、ごみ収集がしっかりしている、公民館に人が良く集まる点。防災佐倉が充実して聞きやすくなってきた。とくにボランティア活動が盛ん。お年寄りの面倒をボランティアが見るような仕組みとなっている。また、町内会館がひとつの町に一つある、防犯パトロールをほぼ各町会がやっている点がある。

要望については、巡回バスの必要性が高まっている。買い物難民対策をしてほしい。メイン通りに面した道の駅があったらいい。市が中心となって移動販売をしてほしい。野菜が高く、物価が高くなってきている。65－75歳くらいまでは高齢者と呼べない。元気なひとが多いのでその活用を考えてほしい。フルタイムは難しいが、介護の人手不足などで高齢者の活用を考えるといい。また、公園が各町会に1～2あるが、ほとんど使われていない。高齢者が活用できるよう運動用具等を置くとよい。自治会に関しては、役員をやりたいがらない人がいる反面、やりたい人がいるので、その兼ね合いが難しい。朝の子どもの見守りは続けてほしい。消防団への関心が非常に低い点も課題。対高齢者ボランティアは多い一方、子どもに対するボランティアが少ない。健康ということでボランティアの人たちが一生懸命になってやっているが、男性ボランティアの参加が少ない。子どもの頃からの食事法が大切という話があったが、食育は大人になってからでは遅い。高血圧は塩分の取りすぎが要因。イギリスは減塩に取り組み2800億円費用を減らした実績がある。子どものうちから取り組まないといけないので、保育園のときからの食育に取り組んでほしい。

（感想）

高齢者ということばが氾濫している。高齢化は3～5年でなくなるものでない。負のイメージで捉えられているが、ポジティブなものと捉えられるように行政に取り組んでほしい。



D班「地域コミュニティが 元気なまち 佐倉」

良いところ

- ✧ 自治会活動の意識が高い
- ✧ 住民が自治会へ協力的であった
- ✧ 公園で犬の散歩をしていると子供達が気軽に声をかけてくれる
- ✧ マンションの集まりで毎朝ラジオ体操をしている
夏には、子供達や隣マンションの住民も参加している
- ✧ 小学校区を拠点化しての取組が良い
- ✧ 子供達の送り迎えのサポートが盛ん
- ✧ 里山整備など、まちづくり協議会の活動が活発
- ✧ 駅前に自転車の放置がない事に感心している
- ✧ 道路等が綺麗に掃除されている
- ✧ 毎朝、駅前や公園内等の清掃活動が行われている
- ✧ マンションの出入り口に協力して花が植えられている
→佐倉市は自治会活動が盛ん、住民も協力的で大変良い。
- ✧ 予防接種等の医療体制が充実している
- ✧ 市職員の対応が良い人が多い

自治会活動

その他

課題

- ✧ 地域での運動サークル作りが無い
- ✧ 関心毎が様々であり、地域活動にまともらない
- ✧ 自治会の防災パトロールに不参加者が多い
- ✧ 自治会未加入者への対応が不十分
- ✧ 自治会未加入者へ加入目的を知らせたい
- ✧ 自治会加入率低下への対策が不十分
- ✧ 周囲に空家では？と思われる家がある
- ✧ 自治会の行事で若い人の参加が少なくなっている
- ✧ 自治会に加入しない人、近所付き合いを嫌う人もいる
- ✧ 安心できるまちづくり・安全性の確保
→自治会やまちづくり協議会の活動が盛んで良い反面、参加しない人とのギャップがある。また、活動の担い手・指導者が高齢化しており、次世代の育成が課題。

良い点・悪い点

(付箋)

- ☆ 「まちづくりしよ」の作成は効果的
→市民協働情報誌が良くできているので活用した方が良い
- ☆ 公園内での子供のマナーが良くなった
- ☆ 観光パンフレットが充実している
- ☆ コミュニティ活動は多いが、各団体の連携は不足
- ☆ 運動サークル団体の一覧があれば良い
- ☆ まちづくり協議会の活動が知られていない
- ☆ 地域まちづくりの指導者育成はどう進めていくのか
- ☆ まちづくり協議会以外の団体の活動が見えない
- ☆ サポートセンターの活動がよく見えない
- ☆ 「まち協」と「サポートセンター」の連携不足
→市民公益活動サポートセンターや各種団体、まちづくり協議会等の素晴らしい活動をもっと周知した方が良い（広報の充実）
- ☆ 地域資源を活かした活動ができると良い
- ☆ 観光都市推進のために佐倉のイメージづくりが不足している
- ☆ 地域コミュニティに文化活動も展開すべき
- ☆ もう少し低料金で芝居や音楽を楽しみたい（音楽ホールの料金が低い）

スタートしたぞ
まちづくり協議会

多様な
市民活動

(雑談などから)

- ☆ 付箋の色は、赤が課題・悪い点、青が良い所の方がイメージしやすかった
- ☆ 市街化調整区域の隣接地開発などの乱開発を市で制限して欲しい

発表内容

市民ができることはたくさんあるという意識でこれからの見通しを話し合い、「なお一層市民サイドのまちづくりを」という結論になった。その根拠として、佐倉市民は自治意識が高く、その環境で育った子供達も自治意識が高いと考えている。例えば、自治意識から行われている行動により、子供達が安全に登校できており、まちには花があふれている。自治意識の活動を支えているのは自治会の活動であり、非常に良い実践をしている。一方、自治会における課題として、空家が増えてきたことによる地域の安全や、自治会を担う人員の減少してきていることがある。

まちづくり協議会については、本日配布資料に協議会紹介や取組が記載されている。素晴らしい活動を行っており、目に見える活動につながってきているものの、一般の市民への周知がまだまだ広まっていないという課題を感じた。このような課題に対しては、行政の役割の部分もあるが、地域の人材を活用しながらの取組や市民ができる役割もあると考えている。

「なお一層市民サイドのまちづくりを」を意識しながら次回の会議で解決策を考えていきたい。



平成 28 年 11 月 19 日（土）開催
（第 4 回佐倉市行政評価懇話会）

A班 「健康づくり広め隊」

具体案

行政

- ✧ 支所別に運動ができるスペースを確保する★
 - すでにある施設を利用する
 - 施設に通う術がない人も地区毎なら参加しやすい
- ✧ 各地の施設の一部に健康器具を設置
 - 少しずつ予算を取り、健康器具を設置する
- ✧ 室内スポーツについては、施設の常設が必要
 - 室内・室外のスポーツ区分がある。
 - コミュニティ創りのきっかけとなる。
- ✧ 高齢者、弱者向けのスポーツが考案されている。
 - 情報を入手することが大切
- ✧ 室外スポーツは全国大会への流れが主流になっている。
 - 一般の人の参加は限定される。
 - 規模の大きなものでない、日々の健康につながるスポーツを
- ✧ 若い人向け（スマホなどで）
- ✧ 年寄り向け（回覧、ダイレクトメールなど）
- ✧ 習慣作りを班ごとなど、小さな区域で行う。
- ✧ 健康アドバイザーによるスポーツの有効性、効果・目的のPR
 - 施設を利用して、定期的に説明
 - 地区の施設を利用することで身近に
 - アドバイザーが資格を所有していることをPRして
専門性の高い人によるアドバイスであることを知らせる
- ✧ 既存の取組みを広める。
- ✧ 駅ごとに掲示板（コーナー）を設ける
- ✧ 運動団体一覧を班毎に回覧
 - 連絡先を掲載するとアクセスしやすい
- ✧ 活動拠点のアナウンスを回覧する（班ごと）
- ✧ アナウンス資料を駅、支所等に掲示する
- ✧ スポーツサークルが多くあるけれど、
各サークルの平均年齢が何歳くらいかわかるようにする。
 - からだを動かす場合、年齢が近い集まりだと入りやすい。
- ✧ 友達づくりのきっかけになる

★マークは
注目ポイント！

開催場所の分散化

情報発信ツールの徹底

市 民

- ◇ 知り合いと体について話すことで、コミュニケーションができ、かつ、気付きがある
- ◇ 良い場所があれば、他の人に伝える。
- ◇ 自治会、まち協などで活躍する住民の意識改革をし、面で広がる仕組み作り
- ◇ 班で施設利用体験ツアーを実施する。
 - 興味があるけど一步を踏み出せない人も参加しやすくなる
- ◇ 仲間をつくり、集って活動する（車両等）
- ◇ どこに情報が掲示されているか他の人に伝える。
- ◇ 住民が意識を持てるか。
 - 個人のメンタルの問題

一 般 ⇒ 市民と行政が一緒に取り組もう！

- ◇ スポーツが苦手な人を導く手法
 - スポーツが苦手な人は「スポーツ」に抵抗感があり、薦められることが負担となる。
 - ◇ 行政がスポーツを進める理由
 - からだを動かすことがどういった効果をもたらすか（寝たきり予防、病院にかかる人が減ることで税の負担軽減など）を開示し、市民がスポーツの必要性を解し、自発的に取り組むようにする。
 - ◇ 施設を利用して定期的に血圧測定と改善アドバイス会を開く
-
- ◇ ラジオ体操を各所でやり、参加する
 - ◇ 佐倉独自の体操をみんなでやる。
 - 例：山武での取り組み
 - 独自であることにより参加者が増える
 - ◇ 病気（大病）になると、健康に気をつける（きっかけ）
 - ◇ 大学と連携して生徒を確保★
 - ◇ メンバーに学生を入れるとよい
 - 若い人がいると取り組みやすい
 - 異世代コミュニケーションの場となる
 - ◇ 健康問題はまず自身の姿勢が大切、他への依存は補助的なもの
 - ◇ 佐倉市の特性、水、緑の活用を考える
 - ◇ コミュニティと連携

意識改革

その他（雑談などから）

- ◇ スポーツ大会は競技であり、本当の意味で健康づくりを進めるためには、毎日の積み重ねが重要。そこで、例えば駅単位等、身近と感じる規模（小規模でもよい）で運動を推進して欲しい。

- ✧ 健康は自分の問題であり、他に依存するものではないのに行政に依存しすぎている。大切なのは市民の意識改革なので啓発が必要。
- ✧ 学生の参加を促す際に、行政と大学の連携となると大げさになるので、近所のつながりで声掛けをするなど、個人のできる範囲で行う。
- ✧ 大病をして健康の大切さがわかり、自分で健康に関する情報を集め、「歩く」ことがからだに良いと知って実践している。器具を使ったりしなくとも、日常的にからだを動かすこともできる。自分でできる範囲で続けることが大切。

発表内容

前回、重要なポイントとして、「開催場所の分散化」、「情報発信ツールの徹底化」が挙げられ、スポーツ事業と健康づくりの関係性でみると、開催規模は小さくなくても良いのではないかと意見があった。

「開催場所の分散化」については、屋外に限らず室内での開催や高齢者向けの策を考えてみてはどうか。規模は小さくても高齢者向けの健康増進器具を置いてもらい、場所も多い方がよい。

「情報発信ツールの徹底化」については、行政としては駅などアナウンス効果が高い場所で情報を発信したらどうかの意見があった。市民のほうでは、行事等の情報が届いておらず参加しづらいとの意見があったので、スマートフォンへの情報提供に加えて、自治会やまちづくり協議会を活用したらどうかとの意見があった。行政と市民が協同してできる部分として、健康に関しては意識改革が重要であるので、健康に関する有用な情報発信を徹底的に行うことで、健康意識を高めて自主的な健康づくり活動にも発展するのではないかと考える。

定期的な血圧測定や健康相談なども情報があれば参加する人も増えてくる。ラジオ体操や佐倉独自の体操を創作して開催の場を増やしてみても良いではないか。また、例えば大学との連携など、学生を巻き込んで一緒に活動したり、スポーツ指導を受けたりしてはどうか。あるいは、佐倉の豊富な緑や水などの自然や文化を活かして健康づくりを進めていけばよいのではないか。

行政への提案として、具体的な取り組み案を発表しているので、ぜひ意見を取り入れていただき実現いただきたい。

B班「どうしたらもっと健康づくりが進んだまち 佐倉」

具体案

行政が行えること

- ◇ 行政の職員と共に議員も頑張らないといけない
- ◇ あれもこれもやるといっても予算が必要となる
- ◇ 国債の60年償還ルールを600年に変更
- ◇ スポーツ⇒気持ちよくなるがそれ以外の手段もある
- ◇ 公園、歩道等の整備
- ◇ 簡易的でも良いのでスポーツ心をゆさぶる設備

行政の力を借りる

市民が行えること

- ◇ スポーツをできない人をどうするか
- ◇ スポーツをしていなくても元気な人もいる。その原因を探る
- ◇ 自分に合ったコミュニティを探す

参加出来ない人

一緒に行えること

- ◇ 万歩計などを活用して、ポイント制を導入したらどうか
- ◇ 商工会等と連携してポイントで商品交換してはどうか
- ◇ 個人の自覚を待ってでは進まないで、佐倉市も一緒に
- ◇ 健康づくりが医療費の削減になるためポイント制の導入
- ◇ 長寿の和食の推進（味噌・醤油など）
- ◇ 和菓子の品評会
- ◇ 体を動かすことを目的とする（基礎的運動）
- ◇ スポーツに入る前の身体づくり（応用的運動）
- ◇ スポーツに応じた筋力を伸ばす（発展的運動1）
- ◇ ケガに対する身体づくり（発展的運動2）
- ◇ 小学校等施設の利用しやすい取組
- ◇ 自治会と連携してのスポーツ振興
- ◇ 防犯パトロールの際にラジオ体操など
- ◇ 身近な公園などでのラジオ体操
- ◇ ガン検診の利点の周知
- ◇ 運動をしなくても頭脳的な実行で元気な人がいる。（碁や将棋など）
- ◇ スポーツや健康の相談窓口（メール、電話も含む）をもっと多く
- ◇ その時になれば何とかなると考えている市民が多い
- ◇ 医者からの視点からの健康評価を知りたい
- ◇ それぞれの趣味や嗜好がある

ポイント制

食 事

運動の進め方

町内会との連携

その他

その他（雑談などから）

- ✧ 健康相談に加えてスポーツも含めたアドバイスができる相談体制作り
- ✧ 人には個人毎の差があるため、その人の体調・健康状態にあったできるスポーツを選ぶ重要性
- ✧ スポーツをやりたい人、やりたくない人、やりたくてもできない人もいる。健康であれば無理してスポーツを行わなくても良い。
- ✧ 佐倉市は心でも身体でも健康な佐倉を目指す！そのためには。
- ✧ スポーツで健康になれるのかの疑問に関して、スポーツには段階毎に目的や強度があるため競技スポーツに至る前の段階で十分に健康的になれるのではないかと考えられる。その後の競技スポーツのための段階では、スポーツで怪我を伴うことも考えられるため、怪我をしないための予防や身体作りが重要ではないか。
- ✧ 広報誌の新聞折込だけに限らず、チャンネルを増やすことが重要
駅やコンビニ配布も情報に触れる人数が増えると思われる。
- ✧ 高齢者は、身内に言われると逆に外出しなくなる人もいる
- ✧ 市のスポーツ行事で参加する人は同じ顔ぶれかもしれない。参加するには家族の理解なども必要

発表内容

「行政と市民が一緒に行えること」に対して多くの意見が出た。

健康に関する個々人の自覚を待っていても実行に移すのに時間がかかってしまうので、行政が行政や商工会等にポイント制度を構築し、健康活動と連携することで、健康づくりを促進できるのではないかと。また、健康と食のつながりが強いので、行政の力を借りての和食の推進などの健康づくりはどうかとの提案があった。

次に、「市民が行えること」として、スポーツに参加できない人をどのように参加してもらうかの課題については、人には個人毎に差があるため、その人の体調・健康状態にあったスポーツを選ぶ重要性を認識すること。運動をしていなくても頭を使うことで健康な人がいるので、スポーツを行う以外の健康手段もあるのではないかと考えるなどの提案があった。

その他として、医療的な健康相談に加えてスポーツ選びまで含めたアドバイスができるような、相談窓口があればよいと意見があった。

質疑応答

（A班）前回の発表は突き詰めた視点での発表が興味深かったが、その中で課題に挙げられていた「スポーツは本当に健康に良いのか」についての議論はあったのか。

（B班）「スポーツは本当に健康に良いのか」についての議論は深められなかった。
しかし、スポーツを行う人だけが健康ということではないと考え、例えばスポーツを行ってなくても頭を使って健康な人もいるのではないかと意見があった。また、スポーツをやりたい人、やりたくない人、やりたくてもできない人もいる。無理してスポーツを行わなくても別の手段で健康的であるなら、それで良いのではないかという意見での結論であった。

C班「元気な地域コミュニティ のために！！」

具体案

<市民の参加>

市民がやること

- ◇ ボランティアへの参加

一緒にやること

- ◇ 高齢者の有効活用
- ◇ 市民カレッジの活動が素晴らしい
- ◇ 市民の参加にはアメとムチ
- ◇ アメとしてポイント制・映画の割引
- ◇ 温泉の割引

行政がやること

- ◇ 趣味の会が多いのでその活用
- ◇ 自主的に出られるような運動、レクリエーション
- ◇ 市民の参加への足の便を検討

<コミュニティバス>

市民がやること

- ◇ コミュニティバスの活用



運転免許返納

一緒にやること

- ◇ 免許証返納に伴い行政サービス

行政がやること

- ◇ 巡回バス、巡回タクシー
- ◇ 移動販売の環境整備
- ◇ 病院+買物
- ◇ 買物の巡回バス
- ◇ コミュニティバスの設置、頻度が問題

<公園の活用>

市民がやること

- ◇ ラジオ体操との連携
- ◇ 公園での集りの企画

行政がやること

- ◇ 公園への健康器具の設置

<その他>

市民がやること

- ◇ 財源は介護、健保の削減

一緒にやること

- ◇ 道の駅（お願い）雇用の創出

＜市民の参加関係＞

- ✧ 市民カレッジの文化祭は中央公民館の駐車場が足りないくらい盛り上がっていた。活用できたらよい。
- ✧ 市民カレッジは税金を使っているにもかかわらず、卒業後、同期生同士で活動していて地域に還元していないのではないかと声もある。
- ✧ 自分の趣味や健康に関することであれば男性も出席するが、社会参加になると激減する。
- ✧ 出席を促すためには、ユーカリの映画券や染井野の温泉の割引券などのアメが必要ではないか。

＜コミュニティバス関係＞

- ✧ 巡回タクシーは、全国 170 地域くらいにあると聞いたことがある。
- ✧ 交通手段を確保し、買物ができるようにし食生活を充実させることが健康につながる。
- ✧ コープ（食材の宅配）は、出かけているときに届けられたり、注文を変更したりするのが手間なためお休みしている（イトーヨーカ堂の配達は利用している）。
- ✧ コミュニティバスは 100 円でなくてもよい。
- ✧ 南部のデマンド交通は、病院で降りたくても降りられないと聞く。改善が必要である。
- ✧ 病院に行けるようなバスがあるとよい。
- ✧ 免許証の返納は、コミュニティバスと抱き合わせで行って欲しい。交通手段は確保したい。

＜公園の活用関係＞

- ✧ 以前は子どもが遊んでいた公園もいまは利用されておらず、草が繁茂している。
- ✧ 上座公園ではラジオ体操に 100 人くらい集っている。

＜その他関係＞

- ✧ 介護 1 の方などで、家政婦代わりに使っていないか。
- ✧ 年間 6 億円ほどの介護費用がかかっており、年々増加していると聞くが、それを減らして財源として欲しい。
- ✧ 道の駅はちょっとしたことで 30 倍の来場者がくる。そのような事例がある。そうすれば雇用が創出できる
- ✧ 八千代市にもあるが、あそこは駐車場が少ないし、食べるところが充実していない。
- ✧ 佐倉は農家も多い。道の駅を作り、農産物を直売して欲しい。これはお願い。

高齢化が進むと免許返納となるため、「コミュニティバス」は、今後更に需要が増してくるのではないかと考えた。赤字が見込まれるものの何とか頑張って市として事業化してほしい。また、今後、買い物難民が増えてくるための対策として、移動販売車や巡回タクシーはどうか。

もう一つのテーマとして、「市民の参加できる行政」を議論した。

佐倉市には市民カレッジもあり地域のコミュニティに元気な高齢者が多いので、市として活用できる方法がどこかにあるのではないかと考えた。参考事例として、東京では75歳以上が条件で年会費1万円を支払うようなボランティア活動があり、定員が満員のため入れないようなボランティア活動もあるとの意見もあった。

また社会活動の場には、男性の参加が少ない傾向があるが、参加特典としてスパ施設の割引券や映画館の割引などがあれば、もっと社会活動への参加促進になるのではないかと考えた。

「公園の活用」では、各町会で1つ2つの公園があるのは佐倉の素晴らしいところであるが、ほとんど有効活用がされていないので、高齢者のための健康器具を1つでも置いてもらえるとありがたい。

「その他」では、道の駅設置について提案が出た。佐倉市には田畑が多いため、農産物を売ることによって雇用が生まれ良質な野菜が流通されるとともに、新たな交流も生まれるのではないかと考えた。参考事例として、北海道にはたくさんの道の駅があるが、同じような道の駅でも来客者が集まるところとそうでない駅がある。例えば駐車場を広くしたり、飲食店を充実させたり、工夫一つで集客力が変わるので、そのような事例を参考にして工夫して設置していきたい。

今まで述べた施策については、財源が必要なため財源をどのように確保するかだが、毎年、佐倉市は健康保険料など増額していると聞いており、これらは更に減らすことができると考えている。例えば、介護保険についても、軽度の方が不要な家事援助を利用しているケースが多いのではないかと考えた。これらの中で不要なものは抑えて、本当に必要な政策に充てていくことで実現をしてほしい。

D 班「地域コミュニティが 元気なまち！」

具体案

縦割り → 連携こそ命！！

サポートセンターの広報活動

- ✧ 市民公益活動サポートセンターが様々な市民活動を紹介すべき！
- ✧ 市民公益活動サポートセンターでもワークショップを開催しては？
- ✧ 市民公益活動サポートセンターから各団体にメーリングリストを随時発信するなど。
- ✧ 地域毎のさまざまな行事を行っているがなかなか市民全体に伝わっていない。
- ✧ 佐倉市の運動等サークル活動を伝えることが不足している。
- ✧ 地域の活動をより多くの市民に紹介する方法を実施する。
- ✧ 市民公益活動サポートセンター指導者育成をさらに充実！

まち協活動

- ✧ 市の取組を市民サイドに周知していくシステムの再構築を！
- ✧ 地域協議会の内幕が市民にあまり伝わっていないように感じる。
- ✧ 地域協議会のよさが市民に伝わっていない。
- ✧ 自治会への参加者一覧を作成してほしい。（地域別）

個別課題

- ✧ 空家がどれだけあるのか不明だが、何かに利用できないものだろうか。
- ✧ 空き家の開放！
- ✧ 高齢者向けの施設の改良。トイレをすべて洋式化！
- ✧ 佐倉市に対しての好感度の調査を実施！

異世代交流の場づくりを！

- ✧ 異世代交流を図れるイベントの実施
- ✧ 子どもも参加するパトロール
- ✧ 防災パトロールへ参加しない（少ない）
- ✧ 情報の提供。地域での PR。各地の行事予定公表。
- ✧ 子どもステーションの例あり
- ✧ 地域毎の特性を生かしたイベントの立ち上げ（異世代交流をベースに）

- ✧ 自治会、長寿会、子ども会など 団体毎の活動を連携させていく。
- ✧ 地域毎の様々な団体を連携させていくシステムの構築
- ✧ 市、まちづくり協議会、市民の三者が連携できる場づくりを！
- ✧ 気軽に参加できる地域ごとのイベントづくり

たとえば・・・

- ✧ 春は学校、秋は地域（運動会）
- ✧ 地域毎に行うスポーツ大会
- ✧ 日々の暮らしの中で健康づくりを！
（簡単に日常生活を送りながら出来る運動などの細かい活動を自治会で行ってみてはどうか。）
- ✧ 他の自治会との交流が必要と思われる。
- ✧ 地域間の交流もできるように
- ✧ 一戸建てとマンションとでは自治会への参加コミュニケーションが取りにくいのではないか。

市民と行政

- ✧ 情報の提供 市民から行政へ 行政から市民へ “市民と行政の双方向性の情報共有”

その他（雑談などから）

- ✧ 市民も行政も縦割りを打破して連携協力を！！
- ✧ 昔は地域の運動会などがあり、連帯感があつた。
まち協で小学校の校庭を借りて地域の運動会を実施してみてはどうか。
- ✧ 卓球サークルを探して、生涯スポーツ課へ電話したときの職員の対応がとても良かった。
- ✧ 自治会で防犯パトロールを実施しているが、参加するのは役員だけという感がある。
ユーカリが丘2丁目では子供会もパトロールに参加している。
- ✧ ユーカリが丘では、各地区の自治会が分担して夏祭りを実施している。
（自治会同士の交流も図れる好事例）
- ✧ 自治会等地域コミュニティでは新住民と旧住民とで確執がある。
（長老のような方がいたりすると、話し合いにならないことがある。）
- ✧ 地域内にある空き家を市民公益活動や地域活動に利用できないか。
- ✧ 自治会町内会が実施するイベントも会員への周知不足ではないか。もっと PR すべき。
- ✧ せっかく市民公益活動サポートセンターのような良い施設があるのに、市民に知られていないのは勿体無い。何か工夫をして、サポートセンターを有効活用すべき。

「サポートセンターの広報活動」については、地域毎に様々な行事が行われていても、なかなか市民全体に伝わっていかないという課題があるのではとの意見があった。

「まちづくり協議会の活動」についてもまちづくり協議会や自治会の活動・良さについて、もっと広報して欲しいとの意見や、市の取り組みをわかりやすく市民に周知していくシステムの再構築が課題であるとの意見があった。

「個別課題」としては、高齢者向けの洋式トイレが少ないため全てのトイレの洋式化をできないか。空き家がどれだけあるのか不明であるが、活用されていないように思われており、何かに利用できないものかというところから、一戸建て空き家の活用方法を検討したらどうかとの意見があった。

また、個人的には佐倉市が好きで佐倉から出たい人は少ないと考えているため、佐倉市への好感度を調べ、情報発信をすることで好感度を共有できれば良いと考えた。

続いて、「異世代交流の場づくり」については、地域ごとに異世代の交流ができるようなイベントの実施や自治会、長寿会、子ども会など単位毎の活動を連携するシステムの構築を行政にお願いできないかという意見があった。

一方、市民側では、個人単位での防災パトロールへの参加活動など、異世代交流の場づくりを行えるものがあるのではないかと意見となった。

市民と行政で一緒に行うべきこととして整理したのは、行政と市民の相互では情報交流が欠落しているので、行政にも市民にも縦割りではない双方向性での情報交流・連携が必要ではないかと意見となった。

資料 4 まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価結果

◆交付金対象事業評価〔8事業〕(P45～46)

◆具体的施策評価〔8施策〕(P47～55)

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業実施結果報告
（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

交付対象事業の名称	交付金の種類	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標 (KPI)					本事業終了後における実績値		外部有識者からの評価		実績値を踏まえた事業の今後について	
			指標		指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針
【企画政策課】 1 佐倉市総合戦略策定事業	基礎交付	8,964,000	指標①							総合計画の重点施策として総合戦略を位置付け、一体化して取り組んでいるというところは効果的であると言えるのではないかと。	追加等更に発展させる	地方創生を実現するためには、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられた施策について、毎年度、効果を検証し、改善を図るPDCAサイクルを実施することが重要であるため「1追加等更に発展させる」を選択しました。	
			指標②										
			指標③										
			指標④										
			指標⑤										
【企画政策課】 2 定住促進事業	基礎交付	7,992,000	指標①	定住について具体的な相談に入っている者数	10	人	H28.3	36		定住促進用パンフレット「さくらでくらす」はよくできている。暮らし体験ツアーの中で、実際に移住してきた人と年齢層別の座談会を実施すると効果的ではないかと。	追加等更に発展させる	パンフレット、WEB、ムービー等、定住促進のためのプロモーションツールを整えることができたことにより、これらを活用して、東京をメインターゲットとして捉え、効果的なPRに配慮しながら、さらなるプロモーション活動を実施していきな	
			指標②							東京への人口一極集中が進む中、東京に向けて佐倉市の良さをPRする狙いは良い取組であったと考える。東京の昼間人口のうち、働く層の820万人にアピールしてはどうか。			
			指標③						地方創生に非常に効果的であった	総合戦略のKPI達成に有効であった			
			指標④										
			指標⑤						さらなる成果を上げるため、パンフレットの配架や広告プロモーション効果の検証に努めて改善に繋げていただきたい。				
【産業振興課】 3 地域資源を活用した観光振興事業	基礎交付	36,403,880	指標①	印旛沼周辺観光施設来場者数	平成26年度比5%増加		H28.3	0.38%増加		渡し船による周遊ができる仕組みづくりは、印旛沼を体感することにつながり評価できる。船橋市の子とも達が学習に来たということも大変評価できる。利用者増加に向けて、船自体をカラフルにしたり、屋根にキャラクターを描くなど船自体の魅力を上げるような仕掛けはどうか。	事業の継続	平成27年度は天候の関係により「チャーリアップフェスタ」の来場者が2万人以上落ちたにも関わらず、当該事業による周辺観光地の回遊性が高まり、全体の来場者数が低下することはないことがあった。このことから、今後も事業を継続して実施し、広告宣伝に力を入れ、更なる集客数の向上を目指します。	
			指標②							舟運ルートの拡充のみではなく、ふるさと広場への交通アクセスの改善、周辺整備など全体で魅力アップさせることが大切。			
			指標③						地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった			
			指標④							良い取組なので、PRに力を入れて欲しい。			
			指標⑤							電神橋の竜の口は噴水が出る設計となっていて。今は水を出していないが再開して、船を發航させる時の観光スポットにてきないか検討しに欲しい。			

交付対象事業の名称	交付金の種類	実績額 単位:円	本事業における重要業績評価指標 (KPI)					本事業終了後における実績値		外部有識者からの評価		実績値を踏まえた事業の今後について
			指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	
【産業振興課】 4 観光情報発信強化事業	基礎交付	16,220,120	指標①	屋内・屋外公衆無線LAN設置基数	15	基	H28.3	13	総合戦略のKPI達成に相応程度効果があった	外国人観光客へのサービス向上も図られることから、観光振興及び交流人口の増加に寄与するものと評価する。観光情報サイトへのアクセス数や傾向を分析して、更なる波及効果へつなげていただきたい。	事業の継続	整備した公衆無線LANに接続すると、多言語による市の観光情報サイトに自動接続する仕組みを構築したことにより、今後更に増加が予想される外国人観光客へのサービス向上が図られるものと考えます。
			指標②									
			指標③									
			指標④									
			指標⑤									
【企画政策課】 5 定住促進(定住・交流人口増加のためのイベントの開催)	タイプⅡ	543,784	指標①	定住について具体的な相談に入っている者数	10	人	H28.3	36	総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった	東京への人口一極集中が進む中、東京に向けて佐倉市の良さをPRする狙いは良い取組であったと考える。東京の昼間人口のうち、働く層の820万人にアヒールしてはどうか。さらなる成果を上げるため、パンフレットの配架や広告プロモーション効果の検証に努めて改善に繋げていただきたい。	追加等更に発展させる	知名度向上、定住・交流人口の増加を図るためには、都心における接触機を設けることが有効であることから、効果的なPRに配慮しながら、さらなるプロモーション活動を実施していきたいと考えます。
			指標②									
			指標③									
			指標④									
			指標⑤									
【子育て支援課】 6 子育て支援企画推進事業(佐倉市こども総合窓口の整備)	タイプⅡ	4,508,000	指標①	こども総合窓口の開設	1	か所	H28.3	1	総合戦略のKPI達成に有効であった	看板の文字が丸文字で柔らかい雰囲気となり、ローテーションは広くベビーカーに配慮した設計で、実際に見て明るい雰囲気となった。今後は、KPIに未達成者数を設定して、カウントしてはどうか。	事業の継続	子どもと保護者が快適に過ごせる空間づくり(ハード面)は完了したので、ソフト面の改善を図ってまいります。その一環として、教育委員会との連携により、こどものことなら何でも相談できる「こども総合窓口」を目指してまいります。こども総合窓口を始め、佐倉市の実施する子育て支援事業について、子育て世代が使用するツールを中心に情報発信してまいります。
			指標②	窓口サービスに関するアンケートで満足度を示す子育て世帯の数	50	%以上	H30.3	H29.1月時点未実施	地方創生に非常に効果的であった			
			指標③									
			指標④									
			指標⑤									
【危機管理室】 7 防災資機材等管理事業(妊産婦・乳幼児用防災用品の備蓄)	タイプⅡ	1,369,000	指標①	助産師災害活動用必要物品の充足率	100	%	H28.3	100	総合戦略のKPI達成に有効であった	「安心して子どもを産み育てられるまちと認める者の割合」については、年齢・性別を問わず集計された市民意識調査結果を指標値としているが、数値に信憑性を持たせるため、対象者を妊婦や1年以内に出産した世帯などに絞るなど調査の仕方を検討して欲しい。	予定通り事業終了	万一の災害に備え、購入した資機材を適正に管理していきます。また、正確な数値が得られるよう市民意識調査の対象者や質問内容について、検討してまいります。
			指標②	安心して子どもを産み育てられるまちと認める者の割合	50	%以上	H30.3	51.1	地方創生に非常に効果的であった			
			指標③									
			指標④									
			指標⑤									
【生涯スポーツ課】 8 (ブランドサッカーに係るイベント等の開催のための備品の購入)	タイプⅡ	3,579,216	指標①	試合が行える環境整備	1	面	H28.3	1	総合戦略のKPI達成に有効であった	人工芝のコートに加え、周囲が静かな環境を活かした干葉草初のブランドサッカーの試合ができる環境整備は、地方創生の取組に効果的であったと評価できる。	事業の継続	パラリンピック種目であるブランドサッカーを通して、種目の紹介や体験教室等を開催し、障害者スポーツの理解を深め、共生社会の実現を目指します。
			指標②	ブランドサッカーに係るイベントへの参加者数	100	人	H29.3	192	地方創生に非常に効果的であった			
			指標③									
			指標④									
			指標⑤									

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	1: 産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります					施策名	(1)企業誘致の推進					評価年度	平成27年度	
	地域経済の活性化や地元雇用の創出を図るためには、波及効果が大さい市外事業者の市内(工業団地等)への立地促進に向けた誘致活動等を行うことが必要であるため。						実施の内容	・地域経済を活性化させるとともに、人口の維持・増加につながる市民の安定した雇用を創出するため、市外からの立地企業に対する支援や市の誘致体制の整備等を図り、企業誘致を推進します。						
KPI (事業評価指標)	指標名		初期値	目標値	達成率	27年度 1社(累計1社)	28年度	29年度	30年度	31年度	%	%	%	
	工業団地等において新規に誘致した企業数		－	新規5社以上 (5年間の累計)										
KPI設定の 考え方・根拠	佐倉市企業誘致指定企業の指定に関する要綱に基づく申請企業数。年1社以上を目標として設定。 達成率：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100													
具体的事業			取組状況(Do)			評価(Check)			改善(Action)					
	①市の立地条件や優位性、産業用地の条件等に関する情報発信とセールズ活動の実施		企業立地に特化したホームページや、パンフレット「企業立地ガイド」による支援策等についての情報発信等によるセールズ活動を市外事業者5社に対して実施した。			市外事業者1社が新たに市内(工業団地)への立地を決定することとなり(平成28年10月から稼動)、情報発信等が一定の効果があったものと考えられる。			今後も引き続き続き情報発信を行う。また、平成28年度に実施する調査において、近隣他市の事業者が有する佐倉市の立地条件や支援策等に対する認知度を把握することにより、情報発信等の手法について検討を行う。					
	②企業誘致助成制度の拡充／市庁内誘致体制整備		・企業誘致助成制度の拡充、新たな産業用地の開発等の検討を行うため、平成28年度に実施する「起業支援・企業誘致ワンストップ化推進事業」に係る基礎調査について、地方創生加速化交付金の申請を行い、採択された。(④と同様) ・平成24年9月に産業振興課内に整備した「企業支援ワンストップサポートデスク」において、22社からの相談対応を行った。			・平成28年度に調査を実施するための予算を確保することができた。(④と同様) ・相談のあった事業者は主に助成制度や立地環境等に関心を有しており、上記のホームページやパンフレットを活用し、適切に対応できた。			平成28年度当初に調査内容やスケジュール等の具体的な検討、受託者の決定を行い、当該受託者と綿密な調整を図りながら調査を実施する。(④と同様)					
	③企業誘致助成制度による工業団地や佐倉インターチェンジ周辺、国道51号沿い等における工場や流通業務施設等の誘致促進		・佐倉インターチェンジ周辺、国道51号沿い等の大半は市街地調整区域だが、平成26年度制定の「市街地調整区域における地区計画ガイドライン」に示される一定の要件・手続を満たすことにより工場等の建設可能区域とする地区計画を設定できることになった。これを受けて、企業誘致助成制度の対象に地区計画区域の追加を行い、支援策等と合わせて情報発信を行った。 ・また、上記地区計画との関連について確認するため、公法法(公有地の拡大の推進に関する法律)の届出等の大規模土地取得等に係る情報収集を行っている。			佐倉インターチェンジ周辺、国道51号沿い等への立地を可能とする都市計画法上の制度改正に併せて、企業誘致制度の変更を行っており、制度上の受け入れ態勢は整っている。			引き続き、関係部局(都市部等)との情報共有を密に行う。					
	④新たな産業用地の開発に向けた調査及び検討		企業誘致助成制度の拡充、新たな産業用地の開発等の検討を行うため、平成28年度に実施する「起業支援・企業誘致ワンストップ化推進事業」に係る基礎調査について、地方創生加速化交付金の申請を行い、採択された。(②と同様)			平成28年度に調査を実施するための予算を確保することができた。(②と同様)			平成28年度当初に調査内容やスケジュール等の具体的な検討、受託者の決定を行い、当該受託者と綿密な調整を図りながら調査を実施する。(②と同様)					
懇話会意見等	・企業誘致の推進は地域雇用の確保につながるため人口の維持に対して非常に効果的な施策と考える。 ・他市に目を向けると、工業団地が乏しいこの時代に、誘致するための土地が足りないということは、市の立地が良いといえる。総合戦略の目標達成のためには、工業団地の近接地の確保など、産業用地の確保が必要になるため積極的に取り組んでいただきたい。 ・企業誘致は佐倉市の重要課題、具体的に成果を出せるよう期待したい。													
懇話会意見等を踏まえた今後について	・産業用地の確保については、平成28年度に、市内外企業の用地の空き状況やニーズ調査(アンケートやヒアリング)、及び市内の新たな産業用地の可能性について調査を実施いたします。													

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	1：産業経済の活性化を図り、佐倉に安定した「しごと」をつくります	施策名	(5)6次産業化の 取組みの推進	評価年度	
				取りまとめ推進課	平成27年度
				関連課	農政課
施策開始 のきっかけ	農業所得が継続的に減少しており、これまでの生産だけでなく、加工や販売等による農産物の付加価値向上により、所得の増大を図り、農業・畜産業の持続的発展を図る必要性が生じているため。	施策の内容	6次産業化により付加価値の高い商品の開発に取り組みブランド化を推進するとともに、地域で生産された安心・安全な農畜産物の「地産地消」を推進します。		
KPI （事業評価指標）	指標名 総合化事業計画の件数	初期値 1件(平成26年度)	目標値 累計2件に増加 達成率	達成状況	
				27年度 0(累計1件)	29年度 30年度 31年度
			0%	%	%
KPI設定の 考え方・根拠	六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受けることにより、農産物等の高付加価値化につながり、農業所得の増大が図られる。 達成率(累計)：((実績値(累計)－初期値)/(目標値(累計)－初期値))×100				
KPI （事業評価指標）	指標名 6次産業化事業支援件数	初期値 13件(平成26年度)	目標値 累計28件に増加 達成率	達成状況	
				27年度 1件(累計14件)	29年度 30年度 31年度
			6.7%	%	%
KPI設定の 考え方・根拠	6次産業化に取り組むことにより、農産物等の高付加価値化につながり、農業所得の増大が図られる。 達成率(累計)：((実績値(累計)－初期値)/(目標値(累計)－初期値))×100				
具体的事業		取組状況(Do)		評価(Check)	
	①総合化事業計画の認定支援 ②農畜産物の高付加価値化や新商品の開発、生産又は需要の開拓等への支援 ③地域農畜産物の市内消費拡大の推進	農業者を対象とする六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画に係る説明会等(3回)を開催し、計画の作成方法等の説明を行うとともに、相談に積極的に対応した。		6次産業化に取り組むことは、農産物等の高付加価値化につながるものの、農業者にリスクが生じること等から、総合化事業計画の認定申請までには至っていない。	
		農業者、畜産業者を対象とする、6次産業化に係る説明会等(3回)を開催し、農産物の高付加価値化や新商品開発、生産又は需要の開拓等の方法等の説明を行うとともに、相談に積極的に対応した。		6次産業化についての相談件数が増えており、農業者、畜産業者の理解が進んでいると考えられるが、6次産業化を行なった農業者は1者にとどまっている。	
		地域農畜産物を取り扱っている市内の農産物等直売所(8箇所)に対して、機械導入等に係る補助金助成等を行った。		直売所の売上げが増加傾向であることから、消費拡大の推進につながっている。	
				引き続き、直売所を支援し、消費拡大の推進を図りたい。	
懇話会意見等		・佐倉市は工業化と同時に6次産業化も力を入れるべきではないか。農業を中心とする1次産業従事者の収入が増えていない現状を解決するため、6次産業化が求められてきたと認識している。道の駅さらわでは売り上げがよいとも聞いている。柏市では道の駅の隣に野菜レストランを作った地元の方が中心に経営している事例もある。特色ある施策に取り組みたい。商品を開発したり、直売所を活かした観光拠点を整備するなど、6次産業化に力を入れて取り組んでほしい。			
		・佐倉市は農業にも根強い力を持っているとされているが、8箇所の直配所施設があつたのは本日配布されたパンフレットを見て初めて知った。もっと多くの方へ直売所の存在をPRしてほしい。印旛沼を憩いの場、北総地域の観光拠点にするという市の施策もあるので、マルシェ鹿島についても買い物だけでなく周辺施設を活かしてもう少し足を留めてもらうような仕掛けに取り組んでほしい。佐倉にある水や緑を活かしたインパクトある施策に取り組んでほしい。			
懇話会意見等を踏まえた今後について		・大多喜やさらわなど道の駅で発展している地域もある。集客の面で考えれば、施設が集まっており規模のある道の駅は効果的と考えられている。			
		・6次産業化を進めていく中で、農政課に加えて観光・産業も含めての、複数の関連部署との連携が必要である。 ・3月の佐倉朝日健康マラソンは市内外から1万2千人以上の参加があり、市として絶好のPRできる場所。そのような機会に直売所マップを配布したり、戦略的な取り組みをPRする方法もよい。			

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

			評価年度		平成27年度			
			取りまとめ推進		農政課			
			関連課					
基本目標	施策名	(7)担い手の育成支援						
施策開始のきっかけ	施策の内容	農業を持続し、農家人口を維持していくため、新規就農者の受け入れや後継者育成の環境を整え、担い手の確保・育成に努めます。						
			達成状況					
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	新規就農者数	19人 (平成26年度)	34人に増加 達成率	21人(累計)				
KPI設定の考え方・根拠	KPIとして、農業就業人口の減少等が進んでいるため、新たに農業を開始する新規就農者数を設定。 ※新規就農者：農業を営もうとする青年(原則18歳以上45歳未満)等であって、市町村から青年等就業計画の認定を受けた者。各種支援措置がある。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100							
	指標名	初期値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	認定農業者件数	111件 (平成26年度)	120件に増加 達成率	118件(累計)				
KPI設定の考え方・根拠	KPIとして、農業就業人口の確保のためには新規就農者だけでなく既に農業を営んでいる農業者の育成も必要であるため、認定農業者件数を設定。 ※認定農業者：農業を営んでいる者(農業者)であって、市町村から農業経営改善計画の認定を受けた者。各種支援措置がある。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100							
	指標名	初期値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	認定農業者件数	111件 (平成26年度)	120件に増加 達成率	118件(累計)				
具体的事業	取組状況(Do)		評価(Check)			改善(Action)		
	・新規就農希望者に対して、営農形態や方法等についてヒアリングを行った上で、農地のあっせんや、空き家バンクの活用による農家住宅の情報提供を行った。 ・就農することになった新規就農者(2者)に対して、新規就農時に必要な資材購入に係る経費に對する助成(耕作放棄地対策事業補助金)を行った。また、就農後1日でも早く地域の一人として生活や営農が可能となるよう地区代表者等への顔合わせを行うなどきめ細かい支援を行った。 認定農業者になるためには、市町村から農業経営改善計画(※)の認定を受ける必要があるため、当該計画の策定に当たって、農業者(7者)にヒアリングを行った上で助言を行った。 (※)農業経営改善計画：年間労働時間1,800時間以内、年間農業所得570万円を目標とした計画。		・新規就農希望者に対するきめ細かい対応により、新たな新規就農者が2名となり、一定の効果があったものと考えられる。 ・ただし、営農や生活の拠点となる農家住宅を見つけることが困難であるといった課題がある。			・今後も引き続き、農業委員会等と連携を図りながら、新規就農希望者に対する支援を行う。 ・空き家バンクや不動産業者等と連携し、農家住宅に係る情報収集を行う。		
懇話会意見等	②後継者の育成支援(認定農業者への認定支援)		農業者に対するきめ細かい対応により、新たな認定農業者が7名となり、一定の効果があったものと考えられる。			今後も引き続き、農業委員会等と連携を図りながら、認定農業者を希望する農業者に対する支援を行う。		
	①昨年、この懇話会での中にある直売所の施設見学を行った。扱っていた農産物や品物は良いと感じたため、もっと建物や内装など直配所の雰囲気作りを工夫してはどうか。例えば、観光ガイド「ことりっふ」の旺文社や、「さくらでくらす」の文化工房などの事業者と連携して、女性に受け入れられやすい施設の雰囲気作りや、スタンパリーなど仕掛けづくりをプロデュースできればもっと良い施設になると考えている。 ②市の耕作放棄地は増加している。新規就農者へ空いている農家住宅の情報提供と周辺の耕作放棄地をマッピングすることで、耕作放棄地の解消をすることはできないか。							
懇話会意見等を踏まえた今後について	①各直売所の代表者会議を実施するなどして、それぞれの意見を聞く中で、仕掛けづくりを検討してまいります。 ②新規就農者の中でも、既に耕作放棄地を解消し営農している方もいますことから、引き続き耕作放棄地解消に取り組んでまいります。							

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	2. 佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくります	施策名	(2)観光客誘致のための取り組みの実施		評価年度	
					取りまとめ推進課	平成27年度 産業振興課 企画政策課
施策開始のきっかけ	佐倉市の知名度やイメージの向上や交流人口の増加を図るためには、観光情報発信や観光イベントの開催を行う必要があるため。	施策の内容	・転入促進に加え、市を訪れる交流人口の増加、市の知名度やイメージの向上のため、各種メディアを活用して観光情報を発信するとともに、人々を惹きつける観光イベントなどを定期的に継続的に開催します。 ・花を活用したイベントを充実するとともに、印旛沼周辺地域の更なる魅力の向上を図ります。			
KPI (事業評価指標)	屋内・屋外公衆無線LAN設置基数	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			—	13基 (平成27年度)	27年度	28年度 29年度 30年度 31年度
				達成率	100%	
KPI設定の 考え方・根拠	市内外からの観光客、及び今後増加が予想される外国人観光客の利便性向上を図るため、市内の主要観光拠点に無料で接続できる公衆無線LANの設置基数。 達成率：(実績値 / 目標値) × 100					
KPI (事業評価指標)	観光入込客数(イベントを含む)	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			150万人 (平成26年)	180万人に増加	27年度	28年度 29年度 30年度 31年度
				達成率	158万8千人	
KPI設定の 考え方・根拠	市の主要観光施設の入込客数(県「観光入込調査」の元となるデータ)及び主要観光イベントの入込客数の合計人数。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100					
KPI (事業評価指標)	イベント(チュールリップフェスタ、時代まつり、佐倉城址のさくら、市民花火大会)来場者満足度(単純平均)	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			82.5% (平成26年度)	92.5%に増加	27年度	28年度 29年度 30年度 31年度
				達成率	82.0%	
KPI設定の 考え方・根拠	市の主要観光イベントである、チュールリップフェスタ、時代まつり、佐倉城址のさくら、市民花火大会の来場者アンケートにおいてイベント内容に満足していると回答した人の割合。 初期値を下回った					
					%	%
KPI (事業評価指標)	印旛沼周辺観光施設(佐倉ふるさと広場・草ぶえの丘・サンセットヒルズ)来場者数	指標名	初期値	目標値	達成状況	
			47万人 (平成26年度)	59万6千人に増加	27年度	28年度 29年度 30年度 31年度
				達成率	47万4千人	
KPI設定の 考え方・根拠	市の主要観光施設の入込客数のうち、印旛沼周辺にある佐倉ふるさと広場、草ぶえの丘、サンセットヒルズの合計人数。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100					
					3.1%	%
					%	%
	①観光案内所やインターネット、各種メディアを活用した観光情報(多言語によるものを含む)の発信	取組状況(Do)		評価(Check)		改善(Action)
		・観光案内所のある京成佐倉駅及びJR佐倉駅に4カ国5言語対応の観光案内看板を設置。 ・市内の主要観光拠点13箇所に無料で接続できる公衆無線LANを設置するとともに、4カ国5言語対応の市観光情報サイトを作成し、市の公衆無線LANに接続すると本サイトへ自動接続する仕組みを構築。		2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、今後増加が予想される外国人観光客への利便性向上に係る環境の構築ができたものと考えられる。		多言語対応のパンフレットやホームページの充実を図るとともに、各種メディアによる露出の増加や、フェイスブックやツイッター等SNSの効果的な活用(アクセス情報の精査含む)を行う。 その際、引き続き、広報部門、シティプロモーション部門と連携を図ることとする。

具体的事業	②観光イベントの開催や各種観光企画事業等に対する支援	佐倉ふるさと広場における「チューリップフェスタ」「市民花火大会」、佐倉城址公園における「佐倉城址のさくら」「にわのわ(アート&クラフトフェア)」、城下町地区における「佐倉時代まつり」「佐倉秋祭り」の開催に当たって、交付金の助成等の支援を行った。	観光入込客数が前期値と比較して微増の159万人となり、一定の効果があったものと考えられる。なお、満足度が前期値と比較して減少した要因は、「時代まつり」のみが減少しており、これは天候不順(雨のため翌日順延され、かつ、翌日も夕方からの雨でイベントが途中終了)によるものと考えられる。	今後、内容の充実や効率のかつ効果的な運営に向けて見直しを行いながら、イベントの開催等を行う。
	③花を活用したイベントの充実	・4月の「佐倉城址のさくら」、「チューリップフェスタ」をはじめとし、7月の「風車のヒマワリガーデン」、10月の「コスモスフェスタ」を開催。リピーターにも喜ばれるよう、毎年度、花の品種や色、植栽配置の変更等の見直しを実施。 ・市内の花めぐりマップを作成し、各種イベント時及び各観光施設にて情報発信を行った。	天候による影響でチューリップフェスタの入込客数は減少となったものの、周辺観光施設全体に訪れた入込客数は微増となっており、一定の効果があったものと考えられる。	今後、内容の充実や効率のかつ効果的な運営に向けて見直しを行いながら、イベントの開催等を行う。
	④「印旛沼周辺地域の活性化推進プラン」に基づく印旛沼周辺地域の整備推進(印旛沼周辺における観光拠点の回遊性の向上を含む)	・印旛沼周辺地域における回遊性の向上を図るため、地方創生先行型交付金を活用して小型船舶を2艇購入し、市民試乗会を開催(参加者283人) ・小型船舶の渡し運行が可能となるよう佐倉ふるさと広場対岸にあるサンセットヒルズ下に仮設棧橋を設置。 ・サンセットヒルズの利用者の利便性向上を図るため、仮設棧橋とサンセットヒルズを結ぶサンセットヒルズ南側斜面の階段整備工事を行った。	小型船舶の購入により、佐倉ふるさと広場の環境拠点としての魅力向上に一定の効果があったものと考えられる(市民試乗会のアンケート調査結果によると95%以上の方が「良かった」と回答)。	平成28年度以降に計画しているサンセットヒルズのシャワールーム・コミュニケーションルームの建設、佐倉ふるさと広場管理棟(佐蘭花)の改築と合わせて、小型船舶の運航を開始し、印旛沼周辺地域の回遊性の向上を図る。
	⑤観光振興に関する調査及び事業の実施	北総観光連盟や成田空港周辺地域国際観光推進協議会などの各種協議会の構成自治体や経済団体と情報交換を行うとともに、広域的な観光マップの作成や、県が実施する知事のトップセールス等による海外プロモーションやインバウンド事業に参加することにより、観光振興に係る調査を行った。	佐倉市の観光施設及びイベントへの入込客数はここ数年増加傾向にあることから、各施設やイベントの知名度が向上してきたものと考ええる。また、外国人観光客も増加傾向にあることから、今後2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて更なる広報活動の強化が必要と考ええる。	平成28年4月に佐倉市を含む北総4都市が日本遺産に認定されたことを契機とし、構成市と連携を図りながら、事業の立案・実施を行うとともに、県が進めるインバウンド事業に参加することにより、外国人観光客の誘致拡大を図る。
	⑥佐倉にゆかりのあるアニメ・漫画等を活用した観光客増加策の実施	平成28年度の新事業の実施に向けて、アニメ制作会社等関係者と協議を開始。	新事業についてはアニメ制作会社等関係者と協議を継続中。	アニメ関連事業を独自に実施している鉄道事業者や、アニメ制作会社等関係者等と連携を図りながら、新たな事業実施に向けた検討を行う。
	懇話会意見等	・日本遺産の北総4都市江戸紀行があるが、この4都市の中でも佐倉市が一番、東京に近い立地である。このアドバンテージを活かして、観光施策も点から面に広げるようリーダーシップを取って頑張ってもらいたい。アニメを活かしたまちづくりは、版權の問題があるものの佐倉にゆかりの多いモンキーパンチ氏や高橋真琴氏、山川惣治氏などに協力をいただき、観光客の誘致に結びつけられないか。また、マルシェ鹿島などの施設に、子供も大人も喜べるようなものをアニメ館みたいな雰囲気を取り入れたいのも一案である。 ・KPI(観光入込客数)・(イベント来場者満足度)の指標目標値において、目標値の設定が厳しすぎないかと心配している。現在、観光入込客数で前期値150万人(平成26年度)から目標値180万人(平成31年度)とあり、イベント来場者満足度で前期値82.5%(平成26年度)から目標値92.5%(平成31年度)と設定されているが、現状の値からさらに、これだけ伸ばそうなど当ハードルが高いのではないかな。 ・具体的事業③花を活用したイベントの充実として、「チューリップフェスタ」は、多地域にも同様のイベントがあるため、観光入込客数の増加に向けて差別化する要素が重要ではないか。個人的には知人のSNSを見たのがきっかけで、国営ひたち海浜公園のネモヒラを見に観光に行ったが、現地は大変多くの人で賑わっていた。フェイスブックやインスタグラムなどイベント参加への動機づけや波及効果が高いと考えている。既存のメディアに加えて、ソーシャルメディアをうまく利用してほしい。若年層への広報効果としては紙面よりも何よりもまず携帯を見る頻度が高いと感じている。		
懇話会意見等を踏まえた今後について	・佐倉市の立地的な優位性や歴史、自然、文化の観光資源をより効果的に活用し、今後も観光施策に推進に努めてまいりたい。 ・アニメを活用したまちづくりは、新たな客層を呼び込める有力なツールと考えられるため、今後具体的に事業を進めてまいりたい。 ・日本遺産にも認定された城下町佐倉の「サラムライのまち」のイメージなどを、SNSを効果的に利用して、海外などに積極的に情報発信を行ってまいりたい。			

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	2. 佐倉の魅力を発信し、新しい「ひと」の流れをつくり出す	施策名	(6) 転入促進や転出抑制につながる住宅施策の実施		評価年度	
			取り組み	達成状況	平成27年度	平成27年度
施策開始 のきっかけ	良好な住生活の実現を目指すため、平成26年3月に作成した佐倉市住生活基本計画により、計画に記されている施策である空き家対策及び定住化対策等を推進します。	施策の内容	若者世帯等の市内への転入を促進するとともに、その市外への転出を抑制するため、また、子育て支援や高齢者の見守り支援のため、親世帯との同居・近居のための住み替えを支援します。 ・空き家の活用を促進し、定住人口の増加を図るため、中古住宅のリフォームを支援するとともに、空き家情報を収集し、市内外へ発信します。 ・農家住宅への居住ニーズに対応した情報収集・発信により、農村部における人口減少の抑制に努めます。	達成状況	27年度	31年度
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	27年度	31年度
KPI設定の 考え方・根拠	若者世帯等の親との同居・同居の住み替え支援件数	-	30件 (5年間の累計)	達成率	0件	%
	親と子の同居・同居を支援し、定住人口増加を推進するための指標として設定。 達成率：(実績値 / 目標値) × 100				0%	%
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	27年度	31年度
KPI設定の 考え方・根拠	中古住宅リフォーム支援事業実績数	-	117件 (5年間の累計)	達成率	13件(累計13件)	%
	中古住宅リフォームのリフォームを支援し、空き家の利活用を促進するための指標として設定。 達成率：(実績値 / 目標値) × 100				11%	%
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	27年度	31年度
KPI設定の 考え方・根拠	空き家バンクの累計登録数	12件 (平成26年度)	120件に増加	達成率	37件に増加	%
	空き家の売買、賃貸を支援し、空き家の利活用を促進するための指標として設定。 達成率：((実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)) × 100				23%	%
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	27年度	31年度
KPI設定の 考え方・根拠	空き家バンクのマッチング数	36件 (平成26年度)	200件 (5年間の累計)	達成率	100件(5年間の累計100件)	%
	空き家の売買、賃貸を支援し、空き家の利活用を促進するための指標として設定。 達成率(累計)：(実績値(累計) / 目標値(累計)) × 100				50%	%
		取組状況(Do)		評価(Check)		改善(Action)
具体的事業	①若者世帯等の親との同居・同居の住み替え支援	平成28年度からの実施に向け、佐倉市近居・同居住替支援事業補助金交付要綱を作成しました。		先進市を参考にし、基準、条件等を整理しました。		常に効果を検証し、必要に応じ、適宜、要綱の見直しを検討します。
	②中古住宅リフォーム支援事業	①広報さくら、ホームページ等により事業の啓蒙を行いました。 ②空き家バンクとの連携を図りました。		予算額(6500千円:13件分)を概ね執行(6497千円:13件)し、市内から9世帯、市外から4世帯の移住がありました。		更に市内外への情報発信力を強化していく方法を検討します。
	③空き家等を活用した移住者支援	①広報さくら、自治会回覧、地区への説明、各イベント時におけるブース設置等により空き家バンク事業の啓蒙を行いました。		28年度からの累計で、物件登録37件、利用者登録75件、契約成立数15件(市内移住者4件、市外移住者11件)となり一定の実績を図ることができました。		更に市内外への情報発信力を強化し、物件登録数及び契約数の増加により、移住者増加を目指します。
懇話会意見等	・中古住宅リフォーム支援事業において、利用者側としては、信頼できる業者が参入してくる場合も考えられるため注意いただきたい。		・近居・同居の住み替え支援については、親が佐倉市、子供が市外というケースが多いと思われる。市外の方へのPR方法に工夫が必要である。			
	・リフォーム業者の選定につきましては申請者個人の判断でございまして、市が直接関与することは難しいものと考えますが、契約時や施工時において申請者から相談等があった場合は、適切に対応してまいります。		・近居・同居の住み替え支援事業につきましては、市のホームページに掲載することと市外の方へも広く周知を図っているところです。また、全国の書店で取り扱っております。田舎暮らしにしたいという人たちのため、今後も引き続き研究してまいります。			

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	施策名	(2)出産や子育てに対する支援	評価年度	
				取得年度	平成27年度
施策開始のきつかけ	人口減少という大きな課題を解決するために、子育て世代を誘引し、定住を促すことが必要であることから、積極的な子育て支援の取組が求められているため。	施策の内容	出生率を高め、人口減少を緩やかなものとしていくため、妊娠・出産・育児の各期に応じ、母子の健康保持に必要な支援を行い切れ目のない支援を実施します。 ・「子育てしやすいまち」を佐倉市の特徴とするため、子育て世代包括支援センターを設置し、子育てに依る総合相談を実施します。 ・少子化の要因の一つである子育てに依る経済的負担の軽減を図るため、適切な支援を推進します。	取得年度	平成27年度
				取得年度	平成27年度
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	達成状況
KPI設定の考え方・根拠	子ども総合窓口の整備	-	1か所(平成27年度)	100%	27年度 1か所(平成27年度)
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成率	達成状況
KPI設定の考え方・根拠	窓口サービスに満足している子育て世帯の割合	26.6%(平成26年度)	50%以上に増加	達成率	27年度 未実施
KPI設定の考え方・根拠	安心して子どもを産み育てられるまちと感じる者の割合	-	50%以上	達成率	27年度 48.0%
KPI設定の考え方・根拠	市民意識調査において、子育て支援について満足及びやや満足と感じる市民の割合を指標として設定。	-	50%以上	達成率	27年度 48.0%
KPI設定の考え方・根拠	市民意識調査において、子育て支援について満足及びやや満足と感じる市民の割合を指標として設定。	-	50%以上	達成率	27年度 48.0%
具体的事業	①子ども総合窓口の設置	◆平成28年4月からの子ども総合窓口開設に向け、窓口カウンターや遊び場の設置を行った。	◆来庁者からは「窓口が明るくなった」という声をいただいている。 ◆子どもたちが遊ぶ場所をフロアの中心に配置したこと、保護者が手続をしている間、子どもたちを安全に見守ることができると好評。 ◆子どもに関する手続はワンストップで実施できるようになり、利用者の利便性向上につながる。	◆来庁者にアンケートを実施するなどして、より利用しやすい窓口をめざし改善していく必要がある。 ◆教育委員会との連携について協議していく必要がある。	改善(Action)
具体的事業	②子育て世代に対する包括的支援の実施	◆H28度事業	◆H28度事業	◆H28度事業	◆H28度事業
具体的事業	③子育てコンシェルジュの充実	◆子育て支援課に保育士を子育てコンシェルジュとして配置、吉見光の子モンテソーリ子ども園のモンテジュニアに加入、市内2園所での実施となった。(平成27年度の相談実績は、吉見光の子260件、子育て支援課126件)	◆見光の子においては、児童センターや子育て拠点などに積極的に出向き、アフターランチ活動に取り組んでいる。徐々にではあるが相談実績が増加したのは、その成果であると考えられる。	◆未だ子育てコンシェルジュの認知度が低いことから、より一層の周知に努めていく必要がある。	◆未だ子育てコンシェルジュの認知度が低いことから、より一層の周知に努めていく必要がある。
具体的事業	④子育て世代に対する経済的負担の軽減(児童手当や医療費助成、幼稚園就園奨励費)	◆児童手当を対象者数238,505人分に支給した。 ◆0歳から中学3年生までの児童を対象に通院・入院医療費の助成を実施した。(受給対象者数22,257人) ◆幼稚園就園奨励費を市内私立幼稚園に補助金として交付した。(補助対象者数2,163人)	◆児童手当や医療費助成、幼稚園就園奨励費の交付により、子育て世代における経済的負担を軽減することができた。	◆国県の方向性や他市の状況などを踏まえて、子育て世代の経済的負担の軽減策について引き続き検討していく。	◆国県の方向性や他市の状況などを踏まえて、子育て世代の経済的負担の軽減策について引き続き検討していく。
具体的事業	⑤子育て支援等に関する情報提供の充実	◆子育て支援ガイドブック10,000部発行 ◆子育て支援課独自「子育て支援特集」14,000部発行 ◆市のウェブサイトへの掲載	◆ガイドブック、ウェブサイトや広報紙など、様々な媒体を活用して情報を発信することができた。	◆市のウェブサイトから子育て情報を入力する際、階層が深く見つけにくいと言った課題があり改良が必要である。	◆市のウェブサイトから子育て情報を入力する際、階層が深く見つけにくいと言った課題があり改良が必要である。
懇話会意見等	懇話会意見等	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。
懇話会意見等を踏まえた今後について	懇話会意見等を踏まえた今後について	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。	◆KPIに現場実感を設定してはどうか。 ◆教育委員会との連携によるワンストップ化の実現を希望する。 ◆ワンストップ化のために必要であれば、テレビ会議などのシステム構築も検討が必要である。 ◆窓口のワンストップサービスは子育てしやすい良い取り組みであり、情報発信に努めて欲しい。 ◆市のHPから子育て支援情報を入力する際には、階層が深すぎで探しにくい。 ◆妊婦面接等の際に、PC画面で案内しながら子育て情報を提供できると、更に伝わりやすい。

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	3:若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えます	施策名	(3)保育園待機児童の解消	評価年度		平成27年度		
				取りまとめ推進課	子育て支援課			
施策開始のきっかけ	「子育てしやすいまち」を目指す中で、待機児童の解消は解決しなければならない喫緊の課題であるため。	施策の内容	「子育てしやすいまち」を佐倉市の特徴とするために、待機児童ゼロの推進など保育サービスの量的な充足を目指すとともに、保護者の就労形態の多様化に対応し、利用者の立場に立った保育サービスの拡充を進めます。	関連課	-			
KPI (事業評価指標)	指標名	初期値	目標値	達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
				41人(H28.4.1時点)				
	保育園待機児童数	34人(H27.4.1時点)	0人(H29.4.1時点)					
			達成率					
KPI設定の考え方・根拠	保育園待機児童数を指標として設定。 達成率：（(実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)）× 100　ただし、保育園待機児童数が初期値より増加した場合は、「初期値より増加した」と記載する。							
具体的事業		取組状況(Do)		評価(Check)	改善(Action)			
	①・保育園の拡大(保育園、認定こども園、地域型保育事業の積極的整備)	保育定員の拡大 118人(H27.4.1:1,988人→H28.4.1:2,106人) ①生活クラブ風の村保育園佐倉東(民営化による新規開園・定員増30人) ②あい・あい保育園ユニーカリが丘園(新規開園・定員60人) ③のびのびハウス(小規模保育事業から認可保育園へ移行・定員増17人) ④ユニーカリハローキッズ(定員増10人) ⑤吉見光の子モンテッソーリ子どもの家(定員増1人)		公立保育園の民営化や新規保育園整備、既存園の定員増によって保育定員は118人増加したが、待機児童の解消には至らなかった。 社会情勢の変化により保育ニーズが増大し、また、新規保育園の開園により、潜在ニーズの掘り起こしなどがなされる中、新規保育園の整備を積極的に進め、保育定員を拡大していく。	保育園待機児童の解消に向けてきめ細かく、保育定員の確保への取り組みも必要である。 ・質の確保として、保育に関わる常勤職員の割合を増やすことはどうか。また、他市事例として、住居の補助や奨学金等の施策がある自治体もあるので参考にできないか。 ・これだけの施設整備を行ってもなお、需要に対し認可保育園が不足しているようにあれば、認可外保育施設を認証保育施設等に引き上げるよう検討するのも一案ではないか。例えば、東京では施設の面積要件など一定の条件をクリアしてなくても、条件を緩和した認証保育などのカテゴリを設けている。			
懇話会意見等	保育園待機児童の解消のためには、保育定員の拡大と保育士の確保の両面のアプローチが必要であると考えます。現在の保育士確保に向けた取り組みについては、保育士等職員の処遇向上を目的として常勤職員1人につき月額16,000円の市単独補助を行っております。引き続き、この補助を続けると同時に、保育士への家賃補助や奨学金等の施策についても研究してまいります。 ・保育定員の拡大については、これまでの施設整備の状況や今後の潜在的保育ニーズの推移を踏まえながら、必要に応じて、施設整備を行い平成29年度中の待機児童の解消を目指します。							
懇話会意見等を踏まえた今後について	保育園待機児童の解消のためには、保育定員の拡大と保育士の確保の両面のアプローチが必要であると考えます。現在の保育士確保に向けた取り組みについては、保育士等職員の処遇向上を目的として常勤職員1人につき月額16,000円の市単独補助を行っております。引き続き、この補助を続けると同時に、保育士への家賃補助や奨学金等の施策についても研究してまいります。 ・保育定員の拡大については、これまでの施設整備の状況や今後の潜在的保育ニーズの推移を踏まえながら、必要に応じて、施設整備を行い平成29年度中の待機児童の解消を目指します。							

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理シート

基本目標	4: 将来にわたって安心・安全に暮らせる「まち」をつくります	施策名	(5)地域にあった交通手段の確保	評価年度		平成27年度		
				取りまとめ推進課	企画政策課・道路維持課	都市計画課		
施策開始のきっかけ	第4次佐倉市総合計画におけるまちづくりの基本方針「住環境が整備された住みやすいまちづくり」の実現に当たり、公共交通の充実による地域住民の移動手段の確保が必要となったため。	施策の内容	・交通不便地域対策や交通弱者対策として、コミュニティバス等の導入や民間事業者との連携により、地域の移動手段を確保します。 ・地域住民の足として必要不可欠なバス路線が確保できるように要望するとともに既存路線の維持などのための支援を行います。また、沿線市町と連携して、鉄道事業者にダイヤ改正や増便など利便性の向上について要望します。					
KPI (事業評価指標)	新たな交通手段が確保される地区の数	初期値	目標値	達成状況				
		3地区 (平成26年度)	7地区に増加	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
KPI設定の考え方・根拠	既存の公共交通の利用が困難な地域において、コミュニティバスなど新たな公共交通を導入することにより、移動手段を確保していくものとして設定。 達成率：(実績値－初期値)/(目標値－初期値)×100	達成率	0%	%	%	%	%	%
KPI (事業評価指標)	確保されている民間バス路線数	初期値	目標値	達成状況				
		15路線 (平成26年度)	15路線を維持	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
KPI設定の考え方・根拠	民間バス路線を維持していくことにより、地域住民の移動手段を確保するものとして設定。 達成率：15路線を維持している場合は100%と記載。	達成率	100%	%	%	%	%	%
具体的事業	①交通不便地域に対する交通手段の確保 ②バス路線が確保できるようにも既存路線の維持などのための支援	取組状況(Do)	評価(Check)	改善(Action)				
		交通不便地域の解消を含む公共交通への取組を定める「佐倉市地域公共交通網形成計画」に着手した。 また、佐倉地区(内郷地区)において佐倉市循環バス、和田・弥富地区において佐倉市南部地域デマンド交通を運行した。 ちばグリーンバスが運行する神門線・高崎線の2路線4区間について、運行経費の一部を補助している。	佐倉市地域公共交通網形成計画策定中のため、交通不便地域の解消には至っていない。 市で循環バスやデマンド交通を運行することにより、3地区の移動手段を確保することができたが、デマンド交通については利用状況が低迷しているため、利用率向上や運用方法の見直しが必要。 和田・弥富地区について、デマンド交通と併せ、民間バス路線の運行経費の一部を補助したことで、地域の移動手段を確保できた。	佐倉市地域公共交通網形成計画を平成28年度中に策定する。 循環バスは運行を維持し、地域の移動手段を確保する。 デマンド交通については運行見直しを検討する。				
懇話会意見等	・今後ますます高齢化が進む現状で、買い物、病院、公共施設など、生活する上で必要な場所への移動に悩む市民が増加する恐れがある。自家用車に頼らない交通手段の確保は、定住人口の維持向上、元気な地域コミュニティのためにも有効といえる。コミュニティバスなどの検討に加え、現在あるバス路線の維持も重要で、市民も意識して活用するなど地域の足を皆で守る機運が必要である。 ・コミュニティバスについては、乗降場所に留意が必要と考ええる。							
懇話会意見等を踏まえた今後について	・コミュニティバスの検討に加え、既存のバス路線の維持に努めます。 ・コミュニティバスの乗降場所は、乗降時の安全が確保できる区間においては、バス停でなくとも乗降できる自由乗降区間の設定を検討します。							